

2009 年度(平成 21 年度)

事業報告

(自) 2009 年 4 月 1 日
(至) 2010 年 3 月 31 日

事業報告目次

I. 事業総括	3P
II. ボランティア・市民活動推進事業	
1. ボランティアセンター事業	4P
2. ボランティアビューロー事業	21P
3. せたがやチャイルドライン事業	32P
III. 福祉事業	
1. ケアセンターふらっと	35P
2. ケアセンターwith	46P
3. ケアステーション連	50P
4. ケア相談センター結	53P
5. サービスラーニング学	55P
IV. 組織推進	58P

2009年度 事業報告

I. 事業総括

地球のグローバル化が進む中、ボランティア活動も国境を超えるとともに、その領域も福祉・環境・防災など既存の枠にとらわれることなく広がりを見せている。

当協会も、発足以来、多様な事業を展開するとともに、福祉事業や災害ボランティアセンター事業にも着手するなど、着実に足跡を残してきた。現在は、「第三次中・長期計画報告書」を指針に、各々が事業の拡充に努めている。

財務状況の改善など課題は山積するが、当協会が掲げる「ボランティアコミュニティの創造」に向けて、引き続き、各種事業を鋭意展開していく。

1. ボランティア・市民活動推進事業

2009年度の重点目標の「おたがいさまバンク（仮称）」は、ホームページ改訂と合わせ、2010年度の施行に向けて、コンセプトや体制づくりを行った。また11月には第12回全国ボランティア学習研究フォーラム東京・世田谷大会を開催し、シンポジウムや分科会において、区内外の事例研究を発表するなど、参加者間の交流を深めることができた。

災害ボランティアセンター事業では、人材養成として実行委員形式による「災害に負けないまちづくりセミナー」および「災害ボランティアフィールドリーダー養成講座」を開催した。これにより、世田谷区内の機関や団体とのネットワークが広がり、各種研修を協働して実施するなど、具体的な成果をあげることができた。

せたがやチャイルドライン事業については、運営委員会を中心に、事業のあり方や課題を整理した。この過程で、受手・支え手のスキルアップはもとより、多様な世代が参加できる環境整備など、事業のすそ野を広げる工夫を図り、活動を活性化していくことを確認した。

2. 福祉事業

2009年度から、車いすが2台乗るワゴン車が世田谷区から配備されるなど、ケアセンターふらっとの送迎機能が強化された。また、送迎方法についても見直し、最長送迎時間の短縮を実現するなど、業務の効率化に努めた。

ケアセンターwithでも、2008年・2009年と送迎車両2台が一新され、所外活動の充実に貢献した。また、利用者自らが主役となり、他施設のイベント開催時に模擬店を開くなど、社会参加・地域交流の輪が広がった。

このほか、研修事業（サービスラーニング学）では、参加者が前年度に比べ50%増えるとともに、障害者が講師となり当事者の視点でケアを語るなど、充実した内容となった。

3. 組織推進

2009年度の組織推進部は、当協会の財務・経理機能の強化に意を注いだ。これまでの業務分担を変更し、新たに経理に精通した臨時職員を配置して、経理事務の精度向上に努めた。また、協会の財務体質を改善する視点から「財務検討準備会」を立ち上げ、2010年度に向けて準備を整えた。

さらに、法令等との整合を図るために、各種規定等16本を改正・新たに制定するなど、法務環境の整備に努めた。

II. ボランティア・市民活動推進事業

世田谷の総合ボランティアセンター機能として、ボランティアセンター、ボランティアビューローが各々の独自性を活かし、さまざまなプログラムを実施した。

1. ボランティアセンター事業

(1) ボランティアコーディネート事業

① ボランティア相談

区民一人ひとりのボランティア相談、紹介、支援等、個々の要望に合わせた対応を行った。
(以下、Vはボランティアの略)

面談受付

Vしたい	V求む	V 求 む 以 外 の 相 談				小 計	合 計
		情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
141件	56件	15件	0件	20件	13件	48件	245件

来訪問合せ

拠点利用	物品貸出・寄贈	販売対応	V保険受付	その他	合 計
230件	540件	149件	171件	383件	1,473件

電話問合せ

V関連 (継続対応以外のV希望 ・ニード対応等)	事業関連	バザー関 連	拠点利用 関連	その他	合 計
405件	386件	526件	343件	558件	2,218件

(2) イブニングプログラム事業

夜間のボランティアセンターを有効に活用するとともに、仕事・学校帰りに地域の人たちが気軽に参加できるボランティア活動のきっかけとなる機会を提供した。

曜日	回数	内 容	参加者数
火	30回 (5月開始)	区内外の各団体から寄せられる通信物、配布依頼資料等の整理を行った。	—
水	44回 (4月開始)	コミュニケーションをテーマに、緩やかに地域とのつながりをつくるプログラムとして「編み物カフェ」を開催し、時事問題についての意見交換をしながら編み物を行った。	延べ94名
木	1回 (11月開始)	身近なエコをテーマにリユース品の整理等を行いながら、リユースを手段に「若者」を呼び込む企画を実施した。 《企画》不要グラスを活用したアロマキャンドル作りとワンプレート料理(交流会)12月17日	3名
金	43回 (4月開始)	都立高校でのボランティア・体験活動の推進や授業「奉仕」の理解を深めるための「奉仕学習会」や「サポーター研修会」、	延べ98名

		都立高校へのナツボラ広報や、教員を目指す大学生（教育実習生）へのアドバイス支援も実施した。また1月には高校入試を控えた受験生への「模擬面接会」を行い、アドバイスをを行った。年間を通じてニュースを発行し、ボランティア協会事業の広報も行った。	
--	--	---	--

(3) ボランティア学習事業

学校から寄せられる総合的な学習の時間への相談や、小・中・高校・大学生から社会人まで参加できるプログラムを開発し提供した。

① 総合学習・奉仕体験活動コーディネート

ア. 世田谷学園中学校への授業協力

2年生266名を対象に「ボランティア体験授業」の企画運営ならびに事前学習のコーディネートを行った。

実施日	内 容
5月25日	講演：「違いを認め合って思いやりの心を」 講師：春山 幸雄（すまいる梅丘施設長）
6月11日 ／7月7日	体験プログラム（実施団体） ①聞こえ・手話の体験（世田谷区聴覚障害者協会） ②高齢者疑似体験（世田谷区社会福祉協議会、世田谷地域社会福祉協議会事務所） ③車いす体験（ボランティア協会、HANDS世田谷） ④映画「プライド・イン・ブルー」の上映 （知的障害者サッカーワールドカップのドキュメンタリー）
6月22日	「夏のボランティア体験プログラム」についての説明 プログラムの流れ、居住地域のボランティアセンターの案内ほか
7月13日	居住地域のボランティアセンター別「夏のボランティア体験プログラム」申し込み方法
7月17日	マナートレーニング、世田谷ボランティア協会ナツボラ申し込み受付
11月13日	学年全体での活動報告会とクラス単位の振り返り学習

イ. 二階堂高等学校への授業協力

福祉コースの新1年生23名を対象にボランティアについて学ぶ「ボランティア入門講座」の企画・運営を行った。

実施日	内 容
4月13日	講義：ビデオ等を用いた活動例の紹介、ボランティア活動のポイント、ボランティア活動の意義。 体験活動：ブラインドウォーク、体験の感想等を出しての話し合い。活動情報提供と質疑応答。ボランティア協会職員 2名

ウ. 都立松原高校への授業協力

地元商店街やボランティアグループ、児童館等で構成される松原高校ボランティア委員会の構成団体として委員会に出席し、授業ではボランティアセンターについての講話を行った。

実施日	内 容	対象
7月8日	講話：「ボランティアセンターについて」 ボランティア協会職員 1名	40名

エ. 都立総合工科高校（定時制）への授業協力

地元地域や海外で行うボランティア活動を知ってもらうことを目標に、授業企画、実施のコーディネートを行った。

実施日	内 容	対象
7月17日	1・2年生を対象に各団体の活動についての講演（30分×2回） Service Civil International（S C I）3名、祖師谷国際交流協会（S I F A）4名、ボランティア協会職員1名	70名

オ. 都立世田谷総合高校への授業協力

2年生を対象に奉仕体験のプログラムとして「ナツボラ」の体験活動先を提供した。

実施日	内 容	対象
7月12日 ／7月16日	申込み受付 *16日は学校にて受付及びオリエンテーションを実施	158名
7月27日～ 9月11日	活動体験 「ナツボラ」に教科奉仕の体験プログラムとして参加	
9月18日	体験総括 *体験のレポートとアンケートを実施した	

カ. 都立芦花高校への授業協力

新型インフルエンザの影響で地域での体験活動に制約がでたため、急きょ学校内でできる体験活動の企画や実施協力を1年生を対象に行った。

実施日	内 容	対象
10月30日	都立高校での「奉仕」の授業について	240名
11月6日	青年海外協力協会（JOCA）の協力により、帰国隊員の講演	
11月 ～12月	①シャンティ国際ボランティア会のクメール語絵本制作 ②せたがやチャイルドラインの広報ポスター制作 ③芦花公園花の丘友の会での環境整備活動	

キ. 科学技術学園高校への授業協力

通信教育通学コースを対象にボランティア体験プログラムを提供した。

実施日	内 容	対象
6月24日	アイマスク体験と盲導犬ユーザーのお話	46名 1～3年

11月26日	地域にある緑地と野川沿いの清掃活動 世田谷のトラスト活動のお話 緑地の草刈り活動	38名 1～2年
--------	--	-------------

ク. 区内外小・中学校への授業協力

区内の小中学校からの依頼を受け、各種授業協力を行った。

実施日	内容	対象
10月8日	テーマ：「聴覚障害者と手話」 講師：聴覚障害者	107名 等々力小学校4年生
10月23日	テーマ：「視覚障害者と盲導犬」 講師：盲導犬ユーザー	100名 赤堤小学校4年生
11月24日、 25日、26日、 12月10日	テーマ：「障害のある人の話」 講師：車いすユーザー、盲導犬ユーザー、聴覚障害者	105名 松沢小学校4年生
1月12日	テーマ：「視覚障害者と盲導犬」 講師：盲導犬ユーザー	116名 経堂小学校4年生
1月20日	テーマ：「点字学習&体験学習（アイマスク、高齢者）」 *機材のアレンジのみ	154名 砧南小学校4年生
1月21日	テーマ：「ボランティア体験事前学習」 講師：ボランティア協会職員 1名	130名 普連土学園中学3年生
2月23日	テーマ：「車いす体験」 講師：車いすユーザー	133名 弦巻小学校4年生
3月4日	テーマ：「視覚障害者のお話」 講師：盲導犬ユーザー	125名 桜町小学校4年生

② 「夏のボランティア学習プログラム」(ナツボラ2009)

区内に在学在住の中学生から大学生・30歳までの青少年を対象に行う体験ボランティアプログラムの準備を行った。

実施日	内 容	場 所
6月26日	受入先説明会： 受入団体：15団体17名 世田谷学園中学より担当教諭1名 2008年度の報告、2009年度の変更点・留意点の説明、 質疑応答ほか	ボランティアセンター
7月12日 7月19日	参加受付&オリエンテーション 申込み受付 381名 :参加者 377名 *追加受付：7/22、29、8/5、12、19、26	
7月27日 ～9月11日	活動先：69か所 高齢者関係 11か所、障害児者関係 30か所、児童関係 19か所、 その他の関係（国際交流、環境、医療保健等）9か所	
8月22日 9月11日	活動報告会 参加者数 18名	ボランティアセンター

* 参加者所属校（順不同）

中学校

世田谷学園中学校、田園調布雙葉中学校、女子学院中学校、昭和女子大学付属昭和中学校、頌栄女子学院中学校、三輪田学園中学校、梅丘中学校、駒沢中学校、瀬田中学校、八幡中学校、緑丘中学校、早稲田中学校、和洋九段女子中学校、目黒星美学園中学校、開城中学校、川村学園中学校、九段中等教育学校、攻玉社中学校、慶応義塾中学校、桜修館中学校

高等学校

世田谷総合高等学校、昭和女子大学附属高校、学習院女子高等学校、東京女学館高等学校、神代高等学校、世田谷泉高校、戸板女子高校、聖ドミニコ学園高等学校、国際高等学校、成城高等学校、武南高等学校、桐蔭学園高等学校、東海大学付属望星高等学校、桐朋高等学校、駒場高等学校、鴫友学園女子高等学校、ICU高等学校、総合工科高等学校、目黒星美学園高等学校、富士見丘高等学校、桜町高等学校

大学等

昭和女子大学、東京医療保健大学、立教大学、日本大学、東京大学（大学院含む）、東京教育専門学校、

③ せたがやキャンパス・ネットワーク

昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンターが5月30日にボランティアセンターで行った「学生ボランティアコーディネーター養成講座」への協力（参加者12名）や「ナツボラ2009」プログラムや体験先の紹介等、大学生のサービスラーニング支援を行った。

④ 第12回「全国ボランティア学習研究フォーラム」東京・世田谷大会の共催

11月21日・22日に昭和女子大学とボランティアセンターを会場に日本ボランティア学習協会、昭和女子大学と共催で「生きることの意味と社会の価値を探求するボランティア学習」をテーマに開催した。（参加者約150名）

プログラム	内容	参加者数
基調講演	テーマ：「新しい学習指導要領が描くボランティア学習の世界」 講師：森嶋昭伸（日本体育大学教授）	97名
シンポジウム	テーマ：「生きることの意味と社会の価値を探求するボランティア学習」 シンポジスト：柳久美子（都立芦花高等学校校長）、開澤真一郎（NICE 日本国際ワークキャンプセンター代表）、佐藤由美子（人の泉・オープンスペース“Be!”代表） コーディネーター：興梶寛（ボランティア協会理事長）	
分科会	第1分科会「新しい学習指導要領の特色とボランティア学習のすすめ方」 講師：大門 恵子（鹿沼市立北小学校教諭）、渡邊真知子（北光クラブ代表）、野口裕行（東京女学館中高等学校教諭、歴史教育者協議会会員）	18名
	第2分科会「高校生のための魅力あるボランティア学習メニューの開発と地域サポート」 講師：佐野光夫（社団法人神奈川県青少年協会）、池澤彩野花（Friends 高校ボランティアセンター）、尾曲裕子（松原高等学校校定時制教諭）、大河内保雪（ボランティア協会評議員）	19名

第3分科会「大学教育とコミュニティの融合によるボランティア学習推進の可能性を探る」 講師：田村和寿（桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部教授）、青山鉄兵（桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助教）、原田多美子（大阪経済大学経済学部客員教授）	21名
第4分科会「生涯学習の推進と地域社会におけるボランティア学習の成果を生かす試み」 講師：諸井寿夫（狭山市学校支援ボランティアセンター事務局長）、志田邦彦（佐倉市民カレッジ中央公民館館長）	21名
第5分科会「熱く語ろう！学生の社会参画～学びの機会としてのボランティア活動のス・ス・メ」 講師：小島祥美（愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター講師）、上石立子・中川光（昭和女子大学・学生ボランティアコーディネーター）、今井迪代（市民社会創造ファンド・インターン、早稲田大学3年）、菊池恵（市民社会創造ファンド・インターン、法政大学4年）	25名

(4) せたがや災害ボランティアセンター事業

緊急災害時のボランティア活動拠点として、平常時から防災・減災意識を高めるための学習会や行政・関係機関とのネットワークづくりに努めた。

① せたがや災害ボランティアセンターの運営

せたがや災害ボランティアセンターの活動状況について報告・審議を行った。

実施日	内 容
10月14日	上半期の活動状況報告。今後の予定ほか
11月30日	次年度の活動計画および運営体制について
1月21日	次年度の事業方針および部会体制について
3月9日	次年度の予算計画および部会体制について

* 2009年度せたがや災害ボランティアセンター運営委員：横山康博（運営委員長）、荻野陽一、中澤幸雄、原昭夫、興梶寛

② 人材育成

ア. 「災害に負けないまちづくりセミナー」の開催

広く防災への意識を促すため、“若者”、“幼児のいる家族”、“外国人”を対象に3回にわたり講師を招いて講演会を行った。

実施日	内 容	参加者数
6月27日	テーマ：「災害ボランティアって何？」 講師：岡野谷純（NPO法人日本ファーストエイドソサエティ）	14名
7月11日	テーマ：「災害に強いママになろう！」 講師：菊池顕太郎（大切な人を守りたい） *子ども連れの参加も可としプレイスペースを設置した	19名

9月12日	テーマ：「How to survive a Disaster」 講師：田中阿貴（NPO法人多文化共生センター東京）	19名
-------	--	-----

イ. 「災害ボランティア・フィールドリーダー養成講座」の開催

せたがやの防災力を高めるために、以下のテーマでの人材養成を行った。

実施日	内 容	参加者数
10月10日	テーマ：「災害とボランティア」 講師：安藤雄太（東京ボランティア・市民活動センター）	13名
10月24日	テーマ：「避難所」 講師：中川和之（時事通信社）	11名
11月28日	テーマ：「ニーズとその対応」 講師：今泉修一（神奈川県立高津養護学校）	9名
12月5日	テーマ：「ケーススタディ」 講師：清水裕（昭和女子大学）	8名

上記のセミナーと講座を実施するため、セミナー受講生有志と事務局からなる「せたがや災害ボランティアセミナー実行委員会」が、企画・運営を行った。

実施日	内 容	参加者数
4月23日	仙台国際交流協会作成「多言語防災マニュアル『地震』」鑑賞 各セミナーについての協議	8名
5月28日	年間スケジュールの確認 秋のボランティアリーダーセミナーについて	7名
6月12日	まちづくりセミナー当日体制について 7月セミナーの広報について	8名
7月23日	まちづくりセミナーの反省 ボランティアリーダーセミナーについて	8名
8月11日、 20日、25日	ボランティアリーダーセミナーについて プログラム内容について	7名
9月17日	ボランティアリーダーセミナーについて プログラム内容、講師について	5名
10月2日、 22日	ボランティアリーダーセミナーについて 打合せ状況の報告	5名
11月26日	ボランティアリーダーセミナーのふり返し	5名
12月25日	ボランティアリーダーセミナーのふり返し	5名
1月28日	新メンバーの顔合わせ	11名
2月18日	セミナー開催のふり返し	5名
3月18日	1年間の活動のふり返し	7名

* **せたがや災害ボランティアセミナー実行委員**：上田幹郎、菊池頭太郎、後藤暁夫、
染野和夫、高田昭彦、月村雅一

③ ネットワーク活動

ア. 「災害ボランティア連絡会」（仮称）の開催

12月10日にボランティアセンターにおいて、区危機管理室および地域福祉部との情報交換を行い、緊急時の初動体制等について協議した。

イ. 首都圏・全国の災害NPO・災害救援活動団体とのネットワークづくり

他団体とのネットワークづくりのために、職員がシンポジウムや講座に参加した。

実施日	内 容
5月16日	「災害と女性」を考えるシンポジウム
5月26日	都立広尾病院災害医療の基礎知識講座参加
6月7日	ボランティアの安全衛生フォーラム参加
6月11日	都市工学ミニシンポジウム「地震火災と群集避難」
6月23日	都立広尾病院応急処置Ⅰ参加
7月21日	都立広尾病院災害時のトリアージ参加

なお、東京災害ボランティアネットワーク（東災ボ）が主催する第5回「首都圏統一帰宅困難者対応訓練」は、2009年度の帰宅コースに世田谷区は含まれていないため、直接の参加ではなく、情報提供して訓練参加の呼びかけを行うことになった。

全国の災害NPOが参加する「震災をつなぐ全国ネットワーク」に2009年度から参加団体として加盟し、年4回行われる定例会を11月15日にボランティアセンターを会場に開催した。

ウ. 東京都・世田谷区・調布市合同総合防災訓練への協力

6月から世田谷区危機管理室、東京都生活文化局、東京ボランティア・市民活動センター、調布市市民活動支援センターと打ち合わせを開始し、8月30日の訓練に参加した。

会 場	訓 練 内 容	ボランティア協会参加人数
ボランティアセンター	せたがや災害ボランティアセンター災害対策本部を立ち上げ、通信訓練を実施	職員1名
世田谷公園	合同総合防災訓練本部会場に災害ボランティア窓口を開設、こまねボランティアセンター職員1名と東京ボランティア・市民活動センター職員1名も参加 ・災害ボランティアコーディネーション（受付・登録、ガイダンス、派遣、報告） ・給水訓練へのボランティア募集と誘導 ・炊き出し訓練へのボランティア募集と誘導 ・ボランティアグッズ（ベスト、ボランティア証明用名札、軍手）の配布	役職員5名、ボランティア4名、
東京体育館	広域ボランティア活動拠点に都内のボランティアセンターの職員が参集して拠点を開設する応援活動訓練	職員1名
調布市市民活動支援センター	調布市の災害ボランティア拠点に職員を派遣する応援活動訓練	職員1名

④ 広報・啓発活動

ア. 各種イベントでの防災・減災啓発

さまざまなグループ、団体、機関と連携し各種イベントや研修等を通じて、平時からの災害への備えの喚起・啓発に努めた。

実施日	内 容
通年	ボランティアセンター入口において、防災や災害ボランティアに関する写真や報告書・書籍を展示
10月12日	雑居まつりにおいて、マンホールトイレを展示し、子どもを対象に自宅の災害対策についてアンケートを実施
11月13日	世田谷耐震まちづくりフェアへの企画運営協力 「災害ボランティアセミナー：ママに役立つ防災の知恵」
1月31日	神戸をわすれない世田谷との共催 テーマ：「安心安全は毎日のまちづくりから」 講師：林泰義（玉川まちづくりハウス）
2月13日	地域防災リーダー研修会の企画運営協力 テーマ：「大災害に備えて、自分ですること、地域でできること。阪神淡路大震災から15年最近の災害から学ぶこと」クロスロードの実践 講師：中橋徹也（東京いのちのポータルサイト監事）
2月23日	震災がつなぐ全国ネットワーク・移動寺子屋 in 世田谷への協力 「もう一人のいのちを守るため私たちができること」 テーマ：「水害の世紀～その時、避難の判断はどうあるべきか」 講師：片田敏孝（群馬大学大学院教授）
3月15日	おたがいさまフェスタ2010でのブース出店（各種トイレの展示・説明、コンクリートカッターの実演ほか）

イ. 二階堂高校「災害ボランティア講座」の開催

二階堂高等学校からの依頼を受け、福祉演習として福祉コース2年生（29名）へ全4回の災害ボランティア講座の企画支援、講師の選定等の授業協力を行った。

実施日	内 容
2月 1日	テーマ：「災害（地震）とわたし」 講師：青池憲司（ドキュメンタリー映画監督）
2月 8日	テーマ：「わたしのまちの仲間たち」 講師：金重 泰行（株式会社ケアカンパニー）
2月15日	テーマ：「災害の瞬間にどう対応するのか」 講師：高田昭彦（あかつきボランティアネットワーク）
2月22日	テーマ：「わたしのまち、再発見！」 講師：ボランティア協会職員

(5) ボランティア情報ネットワーク事業

ボランティアに関する区内の情報センターとして、活動に必要な知識、団体の活動情報を収集し提供した。

① ボランティア情報誌「セタガヤ・ボランティア・ネットワーク=セボネ」の発行

「人が変わる社会が変わる」をコンセプトに、生活のあらゆる場面からボランティアを身近に感じてもらうための情報誌「セボネ」を毎月約6千部発行した。特集記事や団体紹介等の掲載内容の検討にあたっては、ボランティアの編集委員による編集会議を毎月開催し誌面の充実を図った。
 (4月3日、5月1日、6月4日、7月1日、31日、9月2日、10月30日、
 11月26日、12月27日、1月28日、2月24日、3月25日 延べ45名)

発行月	誌 面 内 容
4月号 イラスト 辻村 章宏	特集1=身近な自然を守り・育てる ～世田谷のみどりを次世代へ～ 特集2=自分らしい道すじを探る ～居場所を支えるネットワークを紡ぐ～ せたがやキラリ人=小沢 尚子 市民力=下北沢「落書き消し隊」
5月号 イラスト みうら し～まる	特集1=世田谷オリジナルその1 ～手間をかけ、心を込めた自主生産品を紹介～ 特集2=生きやすいまちを創造しよう ～ありのままを受け入れ、協力して支えあうこと～ せたがやキラリ人=山本 英夫 市民力=若林町会
6月号 イラスト ミヤワキ キヨミ	特集1=世田谷のごみ、資源再利用 ～ごみにしないことがまず第一～ 特集2=夏休みの感動体験 ～夏はボランティア体験のチャンス～ せたがやキラリ人=村上 純子 市民力=アトリエ・エレマン・プレザン
7月号 イラスト 楠 伸生	特集1=食べ物のなぜ?なに? ～「食育」で食べ物についてもっと知ろう～ 特集2=「父親であることを楽しもう!」父親の子育て参加の取り組み ～NPO法人ファザーリング・ジャパンの活動から～ せたがやキラリ人=cocoon (ココーン) 市民力=NPO法人まちこらぼ
8月号 イラスト イダ ミカ	特集1=情報を集めて子育てに活かそう! ～保育サービスや地域の活動を活かした子育てを～ 特集2=今どきの子どもの悩み ～精神科医 香山リカさんのお話から～ せたがやキラリ人=森野 勝代 (にんじん村) 市民力=せたがや水辺の楽校
9月号 イラスト 彩	特集1=「生きること」「働くこと」に一人で悩まないで ～せたがや若者サポートステーションが誕生!～ 特集2=本気で減災をめざす! ～主役はひとりひとり キーワードは“おたがいさま”～ せたがやキラリ人=室井 洋吉 (JCA玉川) 市民力=5green (ゴーグリーン)
10月号 イラスト TAMMY/ イトウタミコ	特集1=地域に開かれた拠点病院と病院ボランティア ～地域に情報を発信し、人びとが集まる病院～ 特集2=野生ランがつなぐパナマと日本 ～cospaの活動～ せたがやキラリ人=矢崎 与志子 (アウトリーチ) 市民力=NPO法人アジアロード
11月号 イラスト 伊野孝行	特集1=パソコン講座は一人ひとりのヒストリー ～パソコンの活用で生活が変わる～ 特集2=人間の都合による被害者 ～“いのち”を見捨てないために～ せたがやキラリ人=須藤 滯美 市民力=NPO法人語らいの家

12月号 イラスト KUNTA (クンタ)	特集1 = 『オムツゼロ』は利用者の視点から ～100人いれば100通りの排便リズムがある～ 特集2 = 森と暮らす人びとの困難な現実 ～キリマンジャロとアマゾン 2つの支援活動から～ せたがやキラリ人=楨坪 寿鶴子 (映画監督) 市民力=崖線みどりの絆・せたがや
1月号 イラスト 野村俊夫	特集1 = 安心安全は毎日のまちづくりから ～手足を使う住民参加型のまちづくり活動～ 特集2 = 「世田谷ボランティア協会をささえる会」の今、そしてこれから せたがやキラリ人=安高 貴子 市民力=NPO法人世田谷NPO法人協議会
2月号 イラスト 野村美也子	特集1 = 世田谷オリジナルその2 ～手間をかけ、心を込めた自主生産品を紹介～ 特集2 = 心の声を心で聴く ～「私を知る」ことから始まるボランティア活動～ せたがやキラリ人=米村 よね子 市民力=一般社団法人和ちび会
3月号 イラスト 細野修一	特集1 = ボロ塾、そして「ぼろじゅうく」 ～何を言っても大丈夫という安心できるしゃべり場～ 特集2 = 支えあう力をひとつに ～自信とやる気で脳に変化を～ せたがやキラリ人=上田 益 市民力=NPO法人演劇百貨店

* 2009年度セボネ編集委員：星野やよい（翻訳業、ボランティア協会常務理事）、佐藤研資（公務員）、市川徹（まちづくりコーディネーター）、倉上晶（会社員）、渡辺仁（公務員）、鈴木絢子（会社員）、鈴木朋子（会社員）

② ホームページ企画・運用

ホームページ「おたがいさまWEB」を開設し、ボランティア協会が実施する事業や区内外のボランティア情報を早く広く提供するとともに、区民および活動団体からの情報の投稿も随時受け付け、双方向の開かれた媒体として活動をアピールした。

ホームページからの投稿	183件
メールでの問合せ	64件

③ ボランティア・市民活動情報の収集と情報ギャラリーの設置運営

区内外の市民団体や関係機関の資料を収集し、広く活用を促すとともに、書籍等の出版物の展示・販売を行った。また、ボランティア協会に寄せられる市民団体や地域活動情報の掲示・展示コーナーを設けて情報提供を行った。

④ プログラムチラシの作成

リサイクル市、バザーやイブニングプログラム等、気軽に持ち帰れるチラシを作成し、広報に努めた。

(6) 地域連携促進事業

① 「せたがやふるさと区民まつり2009」への参加

8月1日～2日に馬事公苑で行われた「せたがやふるさと区民まつり2009」で、ボランティア協会のPRを目的に、働くひとたちの集まり「ずぼら」による福祉作業所自主生産品の

販売、せたがやチャイルドラインによる衣類・雑貨の販売、手づくり缶バッジ、おたがいさま煎餅の販売等を行った。

② 「エ・テ・マルシェ」への参加

8月29日にパーム下馬で行われたコージーズ主催の夏祭り「エ・テ・マルシェ」に参加協力した。ナツボラ参加者とともに、だだちゃ豆販売やスーパーボールすくいの出店を行い、地域住民との交流を図った。

③ 「三茶阿波踊り」への開催協力

8月31日に栄通りで行われた「三茶阿波踊り」で、ナツボラ参加者とともに交通誘導や横断幕の設置等、開催に協力した。

④ 「第34回雑居まつり」への参加

10月11日に区立羽根木公園で行われた「第34回雑居まつり」で、スタンプラリーで子どもたちに自宅の災害対策についてアンケート（91名参加）を実施するなど、災害ボランティアセンターのアピールを行った。

また、事前準備の雑居まつり実行委員会と反省会に出席した。（6月27日、7月25日、8月29日、9月5日、10月3日、10月31日）

⑤ 自主活動への支援

ア. 場の提供

開所日数	296日	月平均	24.7日
利用人数	延べ 21,225名	月平均	1,769名
利用団体	延べ 1,775団体	月平均	148団体

イ. 諸機材の提供

器材名	件数	器材名	件数
印刷機	375件	プロジェクター	41件
車いす	9件	ワイヤレスマイク	8件
インターネット	52件	スクリーン	43件
厨房	63件	テント	9件
CDコンポ	43件	ビデオ	13件
		合計	656件

(7) パートナーシップ事業

① NPO支援講座

世田谷区社会福祉協議会・地域福祉部、世田谷文化生活情報センター・生活工房と協働し、講義編と実践編の2日間にわたり「市民活動のためのExcel使いこなし講座」を開催した。

実施日	内容	参加者数
2月9日	テーマ：「名簿編」 講師：田中亨(Office TANAKA 代表) (2日間とも)	21名
2月16日	テーマ：「アンケート編」	16名

② せたがやネットワークテーブル（世田谷市民活動支援会議）への参加

世田谷区内の中間支援機関と行政が集まり、情報交換と今後の協力の可能性について奇数月毎に1回開催した。共通のガイド誌の発行と3月6日に「三茶しゃれなあど」で「せたがや市民活動交流会」（ネッティまつり）を開催し100名以上の参加者が集まった。

- * **参加団体・組織**：世田谷区社会福祉協議会、世田谷文化生活情報センター・生活工房、世田谷NPO法人協議会（事務局）、世田谷トラストまちづくり、国際学生ボランティア協会、区・市民活動推進課、区・生涯現役推進課

③ 世田谷区職員採用1年目福祉体験研修の企画運営協力

新規採用1年目の世田谷区職員180名を対象に、区内で暮らす障害者からの話を聞きながら、車いすやアイマスク体験を実施し、地域生活の課題についてグループごとに協議した。

実施日	10月22日（水）午前・午後／2プログラム	
内容	バリアフリーの整理や区の施策であるユニバーサルデザインの取り組みにつながる地域のあり方に、行政職員としてどう向き合うかを重点に、①車いす・アイマスク体験、②福祉先進国と日本の違い（講話）、③障害当事者とのグループワークという3つの流れでプログラムを実施した。	
講師	設楽仁、小沢尚子、梅崎浩、高橋崇、大竹博、鈴木路恵、小湊久美子、鈴木忠、小島直子、荻野陽一、小林砂織、矢崎与志子、中川美貴子、辻 安光、金重泰行	
体験サポーター	市川行康、斉藤有司、佐藤文字、矢野智子、須田祐一郎、今井雅子	

④ 企業へのボランティア体験研修の協力

東京ボランティア・市民活動センターが三菱東京UFJ銀行の委託を受け実施する、新任行員ボランティア体験研修への協力を行った。協力内容は、40名の行員に対し地域の福祉施設・NPOの体験受け入れ先開拓と紹介、体験中の参加者の様子の確認、活動総括のアドバイスを行った。

実施日	体験活動先	参加者数
5月12日 5月14日 *2日間	きたざわ苑／ケアセンターwith／すまいる梅丘／ケアセンターふらっと／下馬福祉工房／烏山福祉園／ウッドペッカーの森／藍工房／東北沢つどいの家 計9施設で受入れ	40名
5月15日	振り返り研修（体験総括） 体験先の活動内容と気づきを体験先ごとでまとめ発表	

⑤ 第27回全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議への参画

6月6日～7日に佐賀市市民活動プラザを会場に開催された。会議には、実行委員会参加団体として参画し、分科会「組織の体質改善指標をつくろう！～あなたの団体はメタボになっていませんか？」の運営に協力した。

- * **実行委員会参加団体**:佐賀県CSO 推進機構、茨城NPOセンター・コモンズ、大阪ボランティア協会、静岡県ボランティア協会、世田谷ボランティア協会、東京ボランティア・市民活動センター、とちぎボランティアネットワーク、富士福祉事業団、北九州市障害福祉ボランティア協会、地球市民の会、健康づくり佐賀コーチズ、日本 IDDM ネットワーク、ボランティアサークル“ばるん”

⑥ 「『社会福祉法人世田谷ボランティア協会』をささえる会」活動への支援

ボランティア協会に対する理解と支援を深める「ささえる会」活動を円滑に行うため、共催事業や運営への協力を行った。

ア. ボランティア活動の輪を広げる活動への支援

実施日	内 容
5月18日	烏山もったいないバザールの共催
8月23日	「エ・テ・マルシェ（夏の市場）」の共催
3月14日	「おたがいさまフェスタ2010」の共催

イ. 会員相互の交流活動への支援

実施日	内 容
5月～3月	循環型みどり企画「下馬で畑づくり」
8月26日	「だだちゃ豆プロジェクト」@エ・テ・マルシェ
11月7日	「干し柿づくり教室」
11月8日	「憩いの家の映画とワインの夕べ」開催
12月4日	「大忘年会」実施
1月17日	「英語でクッキング」

ウ. 組織運営：世話人会、総会開催等への協力

⑦ ボランティアグループ・団体等への後援

事業名	実施日	主 催
大草原の風にのって～モンゴルの文化にふれる	5月31日	SSCドロップインセンター
09女は戦争への道を許さない世田谷集会	5月31日	女は戦争への道を許さない世田谷集会
講演会「家庭をよくする」	6月13日	(社)倫理研究所家庭倫理の会世田谷区
赤堤リサイクルマーケット	6月～2010年3月	人の泉・オープンスペース“Be!”
20周年記念ファミリー手話ミュージカル「手話の国のベビースター伝説」	7月1日～8月30日	手話パフォーマンスきいろぐみ
「風のかたち」と「大きな家」完成記念上映会	7月1日	優れたドキュメンタリー映画を観る会
第31回がやがやなまつり	7月25日	がやがやなまつり実行委員会 東京都教育委員会社会教育振興課
玉川福祉フェスティバル	9月5日	玉川福祉フェスティバル実行委員会

要約筆記一日体験講座	9月6日	世田谷区要約筆記サークル「言の葉」
第7回パイ焼きまつり	10月10日	社会就労センターパイ焼き窯
第34回雑居まつり	10月11日	雑居まつり実行委員会
わんぱく秋まつり	11月29日	わんぱくクラブ育成会
20年目のクリスマス	12月22・23日	手話パフォーマンスきいろぐみ
木根尚登アコースティックコンサート スペシャルゲスト伊勢正三	1月31日	わんぱくクラブ育成会

⑧ 施設、団体、NPO、機関等への職員派遣協力

派遣先	内容	人数	回数
世田谷区教育委員会学校支援員の研修	車いす操作等講師	1名	1回
世田谷区社会福祉協議会	地域のささえあい活動助成事業審査会・報告会	1名	2回
世田谷区社会福祉協議会	住民行動計画委員会	1名	2回
世田谷区防災会議・国民保護協議会	委員	1名	1回
生涯現役ネットワーク	参加団体	1名	1回
世田谷市民活動支援会議	参加団体	1名	6回
せたがやふるさと区民まつり福祉部会	参加団体	2名	1回
奥沢地区青少年委員会	講師	1名	1回
政策研究大学院大学	地域コミュニティの創造と教育	1名	1回
社会福祉法人権評議員会	評議員	1名	4回
首都圏統一帰宅困難者対応訓練実行委員会	協力団体	1名	1回
東京災害ボランティアネットワーク総会	会員団体	1名	1回
東京都・世田谷区・調布市総合合同防災訓練 市民活動センター打合せ	参加団体	2名	4回
震災をつなぐ全国ネットワーク定例会	参加団体	1名	1回
中越まるごと防災グリーンツーリズム事業	調査団体	1名	1回
第5回静岡県内外の災害ボランティアによる救 援活動のための図上訓練	参加団体	2名	1回
地域教育推進ネットワーク東京都協議会事務局運 営会議	都立学校支援部会委員実行 団体	1名	1回
東京都教職員研修センター「リーダー養成研修教科 奉仕推進者養成研修」	助言者	1名	1回
都立松原高等学校ボランティア活動支援地域連絡 会	協力団体	1名	1回
都立総合工科高等学校定時制	講師	1名	1回
第27回全国民間ボランティア・市民活動推進者企 画戦略会議」実行委員会	実行委員団体として	1名	2回
第28回全国民間ボランティア・市民活動推進者企 画戦略会議」実行委員会	実行委員団体として	1名	2回
全国社会福祉協議会ボランティア活動振興センタ ーボランティア情報特集座談会	座談会メンバー	1名	1回

⑨ 研修への参加

研修名	月 日	人 数
ボランティアセンター、ビューロー職員研修	6月21日	17名
区市町村ボランティア・市民活動センター新任研修	5月～8月	1名
全国ワークキャンプフォーラムリーダーシップトレーニングキャンプ I	7月4～5日	1名

⑩ 視察・見学の受け入れ

名 称	月 日	人 数
青森県立 六戸高等学校	7月25日	1名
韓国青少年振興センター「歴史認識と相互理解のための日韓青少年平和討論会」	8月26日	20名
青森県総合社会教育センター・社会参加活動支援センター	11月13日	2名
中越防災安全推進機構復興デザインセンター	2月19日	2名
区立北沢中学校1年進路学習・職場体験	2月2日～4日	1名
秋田県生涯学習センター学習情報班	2月24日	1名

(8) コミュニティ・ビジネス事業

① リサイクル市の開催

リユース活動の推進と誰でもできるボランティア活動の機会の提供を目的に、バザーグループ「てんとう虫」の協力を得て、ボランティアセンターにてリサイクル市を開催した。

実施日	来場者	売り上げ
5月28日	140名	313,816円
9月17日	150名	400,860円
11月26日	170名	387,490円
2月25日	150名	363,793円

② 烏山もったいないバザールの開催

「『社会福祉法人世田谷ボランティア協会』をささえる会」との共催で、地域の福祉団体・施設の参加を募り、「もったいない」をテーマにバザーを実施した。バザーを通じて地域住民やボランティア団体、NPO、福祉施設等との連携と交流を深めた。

	実施日	内 容	団体数 (参加者数)
春の烏山もった いないバザール	5月17日	リユース・自主生産品のバザー、模擬店、ステージ、毛布の回収、書籍・ソフトの回収等	21団体
説明会	4月23日	バザー打合せ会：スケジュール確認、出店配置等	18団体 (22名)
反省会	6月 4日	バザー報告会：準備や当日運営について意見交換	7団体 (6名)

* 参加申込み団体名：アースノイドの会、ウッドペッカーの森、岡本福祉作業ホーム、かけだしの会、烏山病院患者家族会あかね会、コージーズ、在宅福祉を支援する会、世田谷区肢体不自由児（者）父母の会、代田おもちゃライブラリー、ちぐさ企画、千草工芸、にじのこ、パパラギ、

東北沢つどいの家、年金者組合世田谷支部烏山分会、東京ガス首都圏西安全衛生協力会、さくら美術工房、藍工房、せたがやチャイルドライン、アフリカに毛布を送る会、ドロップインセンター

③ コミュニティ・ビジネス活動

ア. 各種商品の販売

ボランティア協会のさまざまな活動を知ってもらいきっかけづくりやリサイクルを目的として、「おたがいさま煎餅」、「エコナプキン」毛糸などの販売を行った。

また、ボランティアグループ「はさみの会」の協力のもと、提供された衣類でリサイクル可能なものは、「ウエス」に加工し販売した。

(ウエス販売実績：2009年4月～2010年3月 合計18,170円)

イ. 「ずぼら」との協働による自主生産品の販売活動

「せたがやふるさと区民まつり」において、働く人の集まり「ずぼら」が、福祉作業所の自主生産品を販売した。

⑨ 職員体制

常勤職員：部長1名、職員4名（内1名は育児休業）

臨時職員：日中勤務1名（育児休業期間の代替）、夜間スタッフ6名（1日1名勤務）

2. ボランティアビューロー事業

より地域に密着したボランティア拠点として、地域の人たちが出会い、ふれあい、学びあうなかから活躍の場の発見や自己実現等、暮らしに根ざした活動を推進した。

(1) 梅丘ボランティアビューロー事業

① ボランティアコーディネート

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談に応じるとともに、ボランティア活動を始めたい人へきっかけづくりを積極的に行った。

ア. ボランティア相談

Vしたい	V求む	V 求 む 以 外 の 相 談				小 計	合 計
		情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
114件	50件	20件	9件	12件	15件	56件	220件

イ. アロマボランティア講座

アロマセラピーの知識や効果、アロマトリートメントの技術を学ぶ機会を提供し、ボランティア活動を始めるきっかけづくりを行った。また、施設での実技体験の機会を設け、継続的な活動につなげるように工夫した。

実施日	内容	講師&体験先	参加者数
5月29日	施設でのボランティア活動について アロマハンドトリートメントの講義と実技演習	小山道子 (アロマショップ カモミール) ボランティア協会職員1名 ボランティア4名	31名
6月5日、9日、11日のいずれかで選択	アロマボランティア活動体験 *地域の福祉施設での実践	すまいる梅丘/ウェルファー/ きたざわ苑/ディサービスセンター 経堂/たつなみ会	26名

ウ. 楽ボラ講座 アロマセラピー フォローアップ・プログラム

学んだことを地域の活動に楽しく活かすことを目的に、アロマ講座の修了生による福祉施設でのアロマトリートメントの活動を実施した。アロマトリートメントは福祉施設からの要望も高く、修了生に参加の機会を提供することで、ボランティア活動の喜びにつなげていくことができた。2月6日にはビューローを会場にアロマクリームづくりを行い、9名アロマボランティアが参加して、活動者同士の交流を深めた。

受け入れ施設	実施日	参加者数
ウェルファー	8月10日、10月20日、11月28日、 2月16日	延べ14名
きたざわ苑	7月24日、10月19日、12月7日、2月8日	延べ19名

すまいる梅丘	4月14日、8月11日、11月10日、 1月12日、3月9日	延べ17名
たつなみ会	7月22日	3名
デイサービスセンター 一經堂	4月23日、5月9日、7月4日、8月24日、 9月19日、11月20日、1月16日、3月19日	延べ31名

エ. アロマ スキルアップ講座

既に活動しているボランティア同士の親睦、アロマ精油に関する学習および施設でのボランティア活動の留意点について、講師を迎え理解を深めた。

実施日	内容	参加者数
11月12日	「施設でのボランティア活動について」 「アロマセラピーの精油について」 講師：小山道子（カモミール）、ふりかえりと告知	10名

オ. 「プチぼら」サークル フォローアップ・プログラム （原則毎月第4土曜日）

「プチぼら」サークル参加者が主体的な活動ができるように、情報提供や体験の場を企画・運営した。

実施日	内 容	協力&会場	参加者数
4月25日	本のリユース交換会	梅丘ビューロー	5名
5月23日	ドッグセラピー見学、洋服のリユース	代田ビューロー	8名
6月20日	ランチツアー下見	江戸東京博物館	5名
6月27日	「ちゃんこランチツアー」光明特別支援学校生徒・保護者と江戸東京博物館見学	江戸東京博物館	34名
7月25日	「戦争を語り継ごう」+グループホームでの「草むしり」	代田ビューロー ウェルファー	6名
8月8日	草むしり+交流会	ウェルファー	6名
8月22日	草むしり+光明特別支援学校メンバーと交流バーベキュー	羽根木プレーパーク	11名
9月26日	都心からの帰宅訓練打合せほか	梅丘ビューロー	5名
10月24日	「六本木～梅丘」帰宅訓練	六本木～梅丘	15名
11月28日	戦争についての話を聞こう 講師：高部心正（カメラマン）	新宿	7名
12月19日	光明特別支援学校メンバーと「ボウリング &クリスマス交流パーティー」	笹塚ボウル	8名
1月16日	プチぼら新年会	梅丘ビューロー	30名
2月27日	ハンドサッカーの応援	駒沢体育館	6名
3月20日	これからのプチぼらについてワークと話し合い	梅丘ビューロー	12名
計 14回			延べ 158名

カ. 編み物ボランティア

バザー提供品の毛糸を使い、小物をつくり各種イベントで販売する。趣味の活動がボランティア活動につながることを提案した。

実施日	内容	参加者数
10月21日、11月5日・18日、12月3日・16日、1月27日、2月10日・24日、3月10日 計9回	参加者の個々のペースに合わせて手提げバッグ等をつくり、2月の梅・夢フェスタフリーマーケットで販売した。	延べ45名

キ. 小梅ちゃんのお部屋①「折り紙ボランティアサロン」

折り紙を通じて、ボランティア活動が気軽にできるようにサロンを開催し、季節の飾りを作った。保育園児から高齢者までできるボランティア活動として、また折り紙をきっかけとした交流ができる居場所として行った。

実施日	内容	参加者数
12月12日	折り紙でお正月飾りづくり 講師：高木美年子（特技ボランティア）	30名
1月9日	重症児を守る会の誕生日カード飾りつけ（花）	10名
2月13日	おひなさまの飾りづくり	12名
3月13日	重症児を守る会の誕生日カード飾りつけ（バラ）	7名

ク. 小梅ちゃんのお部屋②「エコサロン」

資源を無駄にしない取り組みの一つとして「布ぞうり」づくりを行い、20代から70代までの幅広い参加者がものづくりの楽しさや無駄を減らす生活を考える機会となった。

実施日	内容	参加者数
1月23日	布ぞうりづくり 講師：町井賢司（特技ボランティア）、町井ようこ（はさみの会）	15名

② ボランティア学習

若い世代の人たちが、ボランティア活動を通して、社会や地域の課題を知る機会を提供した。

ア. ナツボラジュニア2009

地元の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動を知ってもらうことを目的として、各ビューローを拠点に活動しているボランティアグループや地域の福祉施設等の協力を得て、夏休みの期間でボランティア体験プログラムを実施した。プログラムは、3ビューロー（代田、玉川、梅丘）合同の企画としてチラシや要綱等は共通のものを作成し、地域の小学校を中心に広報を行った。

実施日	内容	参加者数
7月21日 ～8月31日	梅丘ビューローで活動するボランティアグループに参加した。 二八会（絵手紙ボランティア）、はさみの会（切手整理）、アロマVグループ（虫よけアロマスプレー）、東京お手玉の会（伝承遊び）、和裁グループ（浴衣の着付け）、洋裁グループ（エコバッグ作り）、すまいる梅丘（身体障害者デイサービスにての作業交流）、ひびき（音訳）、編み物ボランティア（ミサンガづくり）、てんとうむしグループ（点訳）	30名 （子ども26名、保護者4名）、 延べ44名

③ 自主活動への援助

梅丘ビューローの場の提供、および活動に必要な諸機材の提供を行った。

開所日数	288日
利用人数	延べ 4,183名
利用団体	延べ 418団体

④ 梅丘ビューロー「梅丘ビューローだより」の発行

地域の人たちにボランティア参加の機会を広げていくために「梅丘ビューローだより」を発行し、ボランティア活動の情報提供を行った。（毎月1回700部発行）

⑤ 梅・夢フェスタフリーマーケットの実施

地元梅丘商店街の「梅・夢フェスタフリーマーケット」に参加し、リサイクルを進めるため中古衣料や雑貨等の販売をボランティアの協力のもと実施した。

実施日	ボランティア	売り上げ
2月21日	17名	67,240円

⑥ 春のビューローバザーの実施

リユースをすすめ、地域のボランティア活動の機会を広げるためのバザーとして実施した。2009年度も来場者の利便を図るため、平日、週末の2日間連続で開催した。

実施日	来場者	ボランティア	売り上げ
4月10日・11日	延べ260名	事前整理：延べ47名 当日：29名、合計延べ76名	373,775円

⑦ 職員体制 臨時職員4名（1日2名勤務）

(2) 代田ボランティアビューロー事業

① ボランティアコーディネート

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談に応じるとともに、ボランティア活動を始めたい人へきっかけづくりを積極的に行った。

ア. ボランティア相談

Vしたい	V求む	V求む以外の相談					合計
		情報求む	物品提供	学習・協力	その他	小計	
124件	35件	38件	26件	1件	20件	85件	244件

イ. シニア相談室

お年寄りが抱える健康、病気、在宅サービス等の問題について一緒に考えていく「シニア相談室」を開室した。（毎週火曜日）

開室日数	相談件数
45日	309件

ウ. セラピードッグカフェ「ころん」

セラピードッグ講座の参加者が中心となり、近隣の犬と飼い主、高齢者施設の利用者、小学生、住宅事情などで犬が飼いたくても飼えない方などが、お茶をいただきながら、犬とのふれあいの時を過ごした。（毎月第2、第4土曜日）

実施回数	利用者数	セラピードッグ数
20回	延べ293名	延べ140匹

エ. オープンスペース「くつろぎ」

地域の人同士がつながる場として多様なプログラムを盛り込み、興味や関心にあわせて気軽に参加できる交流の機会を提供した。また、2008年度の事業「落語で人形劇ボランティア」の参加者の初公演の場となり、フォローアップにつながった。

実施日	内 容	参加者数
5月23日	言葉とコミュニケーション 講師：凡从亭 志ん功氏、朗読ボランティアグループのぞみ（群読）、落語人形劇 ちりとてちん	27名
7月25日	語り継ごう戦争体験を・・・ 講師：高部 心成氏（中国帰国者3世）からのお話 すいとんを食べながら質疑応答	15名
12月19日	「クリスマスパーティー」 落語人形劇「ちりとてちん」上演、ウクレレ「マハロ」 演奏、ハンドベル演奏、コーラス「ミューズの会」合唱	19名

オ. わんわんパトロール隊「犬のおまわりさん」情報交換会

代田東町会防犯部とパトロールを開始して1年が経過し、地域の認知度も高まってきたことを受けて、地域情報の共有や活動メンバーの紹介、交流の機会を設けた。

実施日	内 容	参加者数
3月8日	合同パトロール 情報交換会（防犯パトロール隊の成り立ち、自己紹介等）	15名

カ. 落語で人形劇ボランティア講座Ⅱ

人形劇グループ「ちりとてちん」結成1年を機会に、グループとしての活動支援、スキルアップ、新規メンバー募集を目的に開催した。

実施日	内 容	参加者数
3月26日	人形劇グループ「ちりとてちん」による人形劇の披露 講師による講評とアドバイス、小話 講師：志水功夫（噺家 凡从亭 志ん功）	12名

キ. シニアのための傾聴ボランティア講座

世田谷地域での傾聴グループ立ち上げを目的に、ボランティアセンターを会場に体験学習を中心とした講座を実施した。

実施日	内 容	講 師	参加者数
2月 5日	演習① テーマ：「知り合うために」	早川照子ほか (代田傾聴ボラン ティアグループ)	15名
2月12日	演習② 「聴くってなーに？」		13名
2月19日	演習③ 「ふれあい」		16名
2月26日	演習④ 「私とあなた」		15名
3月 5日	演習⑤ 「私とあなた」		14名
3月12日	演習⑥ 「私とあなた」		14名
3月19日	演習⑦ 「私の気持ち・あなたの気持ち」		14名
3月26日	総括：「まとめ」活動に向けて		14名

② ボランティア学習

若い世代の人たちが、ボランティア活動を通して、社会や地域の課題を知る機会を提供した。

ア. 2009ウクレレボランティア講座

初心者でも気軽に取り組める楽器を用いて、演奏ボランティアの養成を図った。受講終了後、参加者が集まりウクレレボランティアグループ「レリーズ」を立ち上げ、施設の訪問演奏活動を開始している。

実施日	内 容	参加者数
5月15・ 22・29日、6 月12日	ボランティアオリエンテーション ウクレレの持ち方、弾き方、コード表の見方ほか 講師：荳口 絵美 (ハワイアンオールスターズ)	延べ111名

イ. ウクレレボランティアオリエンテーション

上記「ウクレレボランティア講座」への参加を希望しながら、定員のため参加できなかった人たちを対象に、「レリーズ」の協力を得て開催した。「マハロ」という演奏ボランティアグループが生まれ、活動を開始している。

実施日	内 容	参加者数
9月8日	ボランティアオリエンテーション ウクレレの持ち方、弾き方、コード表の見方ほか	12名

ウ. あみものEco ボランティアカフェ

毎月第2・4木曜日にカフェとして作品をつくり、その売り上げをチャイルドラインに寄附するなど、編み物をつうじたボランティア活動を行った。

11月のみ代田ビューローで主催し、その後は自主活動グループとして継続している。

実施日	内 容	参加者数
11月19・2 6日	クリスマスの飾りを編み物でつくる 協力：大谷節子、広瀬俊子、三浦泰子、八木率子 (編み物ボラ ンティア)	延べ23名

エ. 「化粧でハッピー 人生を2倍楽しむお化粧品ボランティア講座 パート2」

デイサービスセンターからのメイクボランティアの受入れニーズを契機に、企画段階から施設と協議を重ねながら、グループ活動为目标に講座を実施した。

実施日	内 容	参加者数
3月8日	他己紹介、お化粧品デモンストレーション、実習、ふり返り	17名
3月15日	施設体験 小田急デイサービスセンターふらわぁ豪徳寺	11名

オ. ナツボラジュニア2009

地元の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動を知ってもらうことを目的として、各ビューローを拠点に活動しているボランティアグループや地域の福祉施設等の協力を得て、夏休みの期間でボランティア体験プログラムを実施した。プログラムは、3ビューロー（代田、玉川、梅丘）合同の企画としてチラシや要綱等は共通のものを作成し、地域の小学校を中心に広報を行った。

実施日	7月21日～8月31日
協力団体	みんなの手ひだまり、くつろぎ戦争体験、くつろぎ俳句会、TOY工房どんぐり、樂がき、JCA、ころん、グラスホッパー、さつき、喫茶コスモス、おもちゃライブラリー、デイサービスセンター下北沢
参加者数	23名（子どものみ）、延べ57名

③ 自主活動への援助

代田ビューローの場の提供、および活動に必要な諸機材の提供を行った。

開所日数	288日
利用人数	延べ 9,918名
利用団体	延べ 896団体

④ 代田ビューロー「おしらせ」の発行

地域の人たちに、代田ビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を提供するために、「おしらせ」を発行した。（毎月1回1150部）

⑤ 秋のビューローバザーの開催

リユースをすすめ、ボランティア希望者の受け皿や地域のボランティア活動の機会を広げるためのバザーとして実施した。

実施日	来場者	ボランティア	売り上げ
10月27日～28日	延べ565名	事前整理：延べ72名 当日：34名、合計延べ106名	503,605円

⑥ 職員体制 臨時職員4名（1日2名勤務）

(3) 玉川ボランティアビューロー事業

① ボランティアコーディネーター

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談に応じるとともに、ボランティア活動を始めたい人へきっかけづくりを積極的に行った。

ア. ボランティア相談

Vしたい	V求む	V 求 む 以 外 の 相 談				小 計	合 計
		情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
81件	26件	7件	0件	1件	5件	13件	120件

イ. ボラカフェ

ボランティア活動に興味はあるが、なかなか一歩が踏み出せない人を対象にゆっくり時間をかけ一人ひとりにあった活動を共に考える居場所を目指し、月に1回（第4火曜日）にカフェを開設した。また、当日の都合がつかない人は、別の火曜日の来所を促したところ、下記以外に7月に3名、8月に6名、9月には7名の参加があった。

実施日	内 容	参加者数
4月28日	カフェの説明、ボランティア活動について、アイマスク体験	9名
5月26日	ボトルキャップの洗浄、オリエンテーション、自己紹介	10名
6月23日	編み物、縫い物の作品づくり	5名
7月28日	編み物、手芸、刻印づくり、チャランゴの演奏ほか	8名
8月25日	流木・リヤを使った物づくり、フェルト・アクリル毛糸使用の手芸	9名
9月29日	10月さつき荘まつり出店に向けての物づくり	6名
10月13日	おいでな祭に向けてのタグづくり、荷づくり	6名
11月24日	松ぼっくりツリーの制作	6名
12月22日	ボラカフェのクリスマス（折り紙、演奏ほか）	8名
火曜日以外にもビューローに参加者が立ち寄るようになってきている。10月18日には「おいでな祭」に出店した。		
1月26日	バザー準備、アクリルたわしづくり、メッセージカード作り	3名
2月16日	バザー用福袋準備	2名
3月23日	アクリルたわし、針山づくり、次年度のボラカフェについて	4名

ウ. 集まれ個性派遊ぼう会

発達障害児の個性に合わせた遊びの機会と、その保護者を対象にした情報交換の場づくりを目的に土曜日に「集まれ個性派遊ぼう会」を実施した。臨床美術士や世田谷BBS会、障害児支援グループ「グルンパ」、folkloreボランティアグループ、個人ボランティアとたくさんの方の協力を得て行った。

《遊ぼう会》

実施日	内 容	参加者数		ボランティ ア	計
		子ども	保護者		
4月4日	アートセラピー	17名	11名	16名	44名
5月16日	アロマでハンドマッサージ	11名	7名	10名	28名

7月4日	アートセラピーin 遊ぼう会 part2	18名	9名	11名	38名
8月1日	グルンパと遊ぼう会の夏祭り	10名	2名	17名	29名
9月26日	フォルクローレを聞きに行こう！	3名	1名	2名	6名
10月3日	ホットケーキづくり	7名	5名	6名	18名
11月7日	アートセラピーin 遊ぼう会 パート3	14名	7名	14名	35名
12月19日	遊ぼう会のクリスマス	13名	5名	7名	25名
1月23日	遊ぼう会のおもちつき	10名	7名	12名	29名
3月27日	フォルクローレがやってきました！	10名	6名	14名	30名
合計 10回		113名	60名	109名	282名

エ. 傾聴ボランティア学習会

傾聴講座の修了生を対象に、ボランティア活動が続けていくために必要なスキルの習得や日々の不安や悩みを共有し、ささえあうことを目的に実施した。

実施日	内 容	講 師	参加者数
5月20日	活動状況、近況報告、講義、交流、相談	秋山希美子 (傾聴ボランティアもみじ)	6名
7月15日	参加者近況報告① 課題、交流、相談、本の紹介等		5名
9月 2日	参加者近況報告② 課題、グループ立ち上げに向けて		9名
11月11日	参加者近況報告③ 課題の共有とワーク		7名
2月26日	「聞く力、表現する力、関わる力」の学習、近況報告		9名

オ. 高齢者施設でボランティアするための「傾聴ボランティア講座」

玉川地域にある高齢者施設での活動を目標に、傾聴を通してグループで活動が継続して行えるよう、養成講座を開催した。

実施日	内 容	参加者数
10月23日 10月28日 10月30日	1回目「ボランティアってなに…」 2回目「傾聴について」 講師：大井裕子（目黒チャイルドライン） 3回目「これからの活動について」 講師：林栄美子、川田田鶴子、野村伸子（施設ボランティア）、三浦寛（さつき荘職員）、坂井祐（博水の郷職員）	21名
11月	さつき荘、博水の郷、等々力の家、共愛ホーム、アルテンハイム成城での体験	

12月4日	交流会 講師：秋山希美子（傾聴ボランティアもみじ）	14名
-------	------------------------------	-----

② ボランティア学習

若い世代の人たちが、ボランティア活動を通して、社会や地域の課題を知る機会を提供した。

ア. ナツボラジュニア2009

地元の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動を知ってもらうことを目的として、各ビューローを拠点に活動しているボランティアグループや地域の福祉施設等の協力を得て、夏休みの期間でボランティア体験プログラムを実施した。プログラムは、3ビューロー（代田、玉川、梅丘）合同の企画としてチラシや要綱等は共通のものを作成し、地域の小学校を中心に広報を行った。

実施日	7月21日～8月31日
協力団体	RSの会、JCA、土曜クラス、あおぞら、グルンパ、集まれ個性派遊ぼう会
参加者数	45名（子ども42名、保護者3名）、延べ69名

③ 自主活動への支援

玉川ビューローの場の提供、および活動に必要な諸機材の提供を行った。

開所日数	263日
利用人数	延べ 6,092名
利用団体	延べ 408件

印刷機利用 34件／車いす 5件

④ 玉川ビューロー「ビューローだより」の発行

ボランティア活動をより身近に感じてもらい、ボランティア情報や地域の活動を周知するために、定期的に地域住民に向けた情報紙「ビューローだより」を発行した。

（毎月1回1000部発行）

⑤ 玉川ビューロー利用者交流会の開催

改修工事の終了と二子玉川での玉川ビューロー業務再開のあいさつも兼ねて、会議室の利用者およびボランティアのための交流会を実施した。

実施日	11月20日（11月9日～14日はオープンウィーク）
参加団体	RSの会、JCA、銀雄クラブ、木曜会、失語症花みずき、AA、やすらぎ、あおぞら、グルンパ、
参加者数	39名（参加団体から26名、個人ボランティア2名、演奏ボランティア1名、料理ボランティア10名）

⑥ 玉川ビューロー春のバザーの開催

リユースの推進と誰でも参加できるボランティア活動のひとつとしてバザーを実施した。2009年度は、値つけの仕方を工夫し作業の簡略化を図ったり、福袋を增量して売上増につなげた。

実施日	来場者数	ボランティア	売り上げ
2月23日・24日	延べ340名	事前整理：延べ48名 当日：50名、合計延べ98名	850,000円
報告会	6月10日 参加団体等24名出席		

⑦ **職員体制** 臨時職員4名（1日2名勤務）

3. せたがやチャイルドライン事業

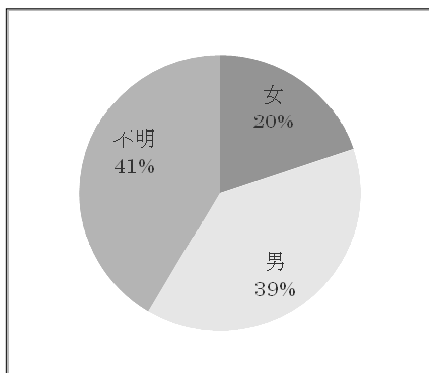
(1) せたがやチャイルドラインの開設と運営

火曜日から土曜日 16時～21時のあいだ、2回線での電話による相談を行った。

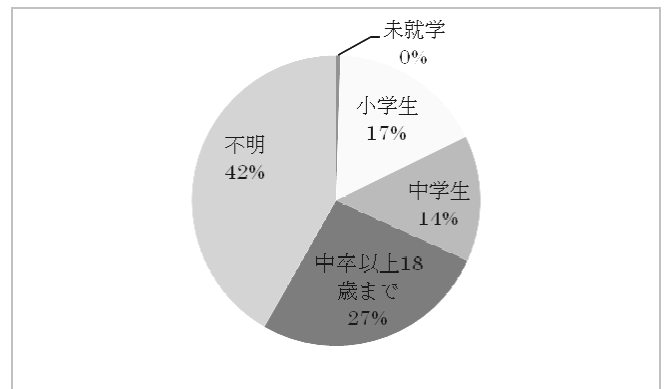
① 年間のアクセス件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
175	717	812	641	447	375	407	256	283	554	553	465	5,685

* 性別内訳



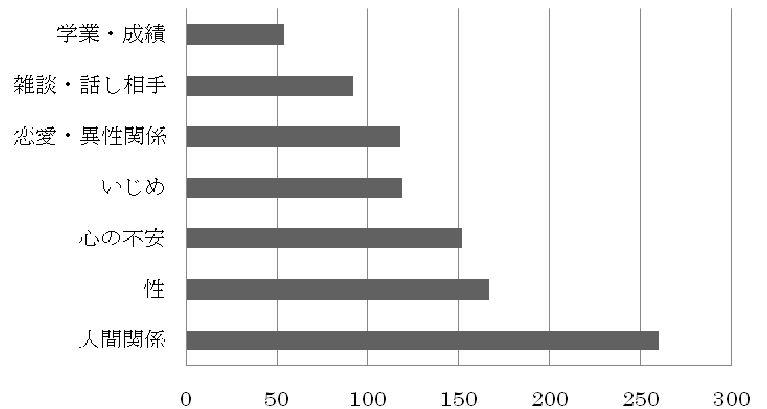
* 年齢層内訳



* 電話内容

2009年度からスタートした全国統一フリーダイヤルにより、電話件数も大幅に増え、通年の通話時間は約27,500分、月平均は、約2,300分となった。

主な電話の内容は、人間関係が約2割を占め、その次に性のこと、心の不安、いじめ、恋愛・異性関係と続いた。



② 運営委員会の開催

円滑な運営を目指し、月1回運営委員会を開催した。2009年度は「研修」「広報」「財務」についてチームを設け、事業の在り方について協議を重ねた。

* 2009年度運営委員：星野やよい（運営委員長）、味岡尚子、天野秀昭、大河内保雪、興梶寛、澤畑勉、月田みづえ、山本多賀子

③ 支え手会議の開催

子ども専用電話としての質の向上を図るため、毎月1回支え手会議を開催した。

*支え手とは、受け手のそばに寄り添い、受け手の電話対応を援助する役割。

(2) 人材育成

① 受け手の募集と選考

電話の受け手の新規増員をはかるため、受け手の募集・選考・研修を実施し、インターン認定を行った。

② 受け手研修公開講座

「きもちを聴く力を育てる講座」として、受け手養成公開講座を開催した。活動の周知と子どもたちの現状について考える気運を高めた。全8回、参加者数延べ156名。

③ 受け手研修専修講座

チャイルドラインの受け手養成のための、専門的な講座を実施した。全10回実施。受講者数9名。また、専修講座終了後、新規活動者のためのオリエンテーションを行った。

④ インターン研修開催

受け手研修修了後、「受け手インターン」として登録された人を対象に月1回程度の研修を実施した。13期インターン研修11回実施。14期インターン研修1回実施。

⑤ 受け手継続研修

受け手のスキルアップのため、3回のグループ体験学習と2回講座型研修を開催した。

実施日	内 容	参加者数
10月23日	テーマ：「子どもの心を聴くまなざし」 講師：横川和夫（フリージャーナリスト）	17名
3月10日・ 24日	テーマ：「アサーション学習会」 講師：舘裕子（女性のためのACOカウンセリングルームカウンセラー）	延べ22名

⑥ 支え手のための合宿研修

全国のチャイルドラインの支え手のスキルアップを目指し、1月9日～11日に2泊3日の支え手合宿研修を行った。青森や山口からも参加があり、各地のチャイルドラインの活動者との交流も図ることができた。（参加者15名）

(3) 交流

① 受け手交流会

受け手、受け手インターン、支え手、運営委員が年1回一同に会し、今後のせたがやチャイルドラインについて、情報交換や交流を図る機会を設けた。

② 受け手認定授与式の開催

受け手研修とインターン研修を修了し、「受け手」として登録された人を対象に「受け手認定

証」を発行した。また、コミュニケーションを図る場として、授与式と交流会を開催した。4月18日に実施。参加者数19名。

(4) 広報・啓発

① せたがやチャイルドライン広報紙「ちゃ〜ら」の発行

「せたがやチャイルドライン」の活動状況を子どもたちに伝えるため、広報紙「ちゃ〜ら」を年1回発行した。

② ポスター・カード・チラシを区内小中学校に配布

子どもたちへのチャイルドラインの周知を図るため、広報物を作成し、区内小中学校に配布した。(区立小中学校95校に配布 ポスター95枚、カード配布 43,000枚)

(5) バザー・物品販売

ボランティアセンター内にチャイルドライン・ショップを設け、リサイクル品を販売したり、区内で開催されるイベント等に積極的に出店し、事業の周知を図るとともに財源の確保に努めた。

また、小物作成グループ「ひだまり」から手づくり小物を提供していただいた。

***出店先**：春の鳥山もったいないバザール、チャイルドラインチャリティバザー、
せたがやふるさと区民まつり、エ・テ・マルシェ、雑居まつり、ボロ市(12月、1月)、
おたがいさまフェスタ、パブリックシアター、世田谷文学館等

(6) ネットワーク

① 全国キャンペーンの実施

「チャイルドライン支援センター」の呼びかけで、全国にあるチャイルドライン実施団体と共催し、全国キャンペーンを2回実施した。

* こどもの日全国キャンペーン：5月5日～5月9日 16時～21時

* 秋の全国キャンペーン：11月9日～11月22日の期間中の10日間参加
16時～21時

② 全国・関東エリアの会議への参加

「チャイルドライン支援センター」が開催するネットワーク会議やエリア会議に参加し、全国の動きや課題を共有した。

(7) 応援団活動

「『社会福祉法人世田谷ボランティア協会』をささえる会」と協働し、「せたがやチャイルドライン」応援団員募集の呼びかけを行った。

(8) 事務局体制 臨時職員1名

Ⅲ. 福祉事業

福祉事業部5事業では、これまでと同様に、高齢者、障害者の方々が地域で主体的に暮らして行けるよう、抱えておられる問題を共に解決すべく、様々な機関と連携し、その支え合いが点から線に、線から面に、面から層へと支援を広げるよう事業を実施した。

1. ケアセンターふらっと（障害者自立支援法 生活介護事業・自立機能訓練事業）

障害者自立支援法＜多機能型＞となり3年がたち、多面的な活動を実施することができた。特に法人内のボランティア、ヘルパー、ケアマネージャー、デイサービス等の事業部門が連携することで、様々なニーズに迅速に対応することが可能となり、何人かの復職あるいは、就労へと成果を得ることができた。

(1) 運営方針

運営にあたっては次の5つの基本方針にそって援助を行った。

- ① 社会生活への主体的な参加
- ② いのちと人権を守りながら、心身の健康維持増進をはかる
- ③ 個性、特性を尊重した活動
- ④ 利用者と家族への支援
- ⑤ 地域の人たちとの交流

(2) 利用定員等

- ① **利用定員**＝1日利用定員を生活介護事業20名、自立機能訓練事業6名とし、様々なニーズに応えられるよう努力した。
- ② **利用日**＝年末年始及び日曜祝日を除き、生活介護事業は月曜日から土曜日まで、自立機能訓練事業は月曜日から金曜日まで開所日とした。
- ③ **利用時間**＝基本は10時から16時だが、利用者の様々なニーズに合わせ、8時30分から19時30分頃までケア及び送迎に対応している。

④ 2009年度利用状況

*生活介護事業

	利用日	予定人数	利用人数	欠席人数	出席率
2009年度	291日	5717人	5029人	688人	88.0%
2008年度	296日	6069人	5150人	919人	85%
2007年度	293日	5588人	4735人	853人	85%

*自立機能訓練事業

	利用日	予定人数	利用人数	欠席人数	出席率
2009年度	234日	1487人	1222人	265人	82.2%
2008年度	238日	992人	802人	190人	81%

2007年度	234日	787人	567人	220人	72%
--------	------	------	------	------	-----

(3) 利用者状況 (2010年3月末、単位：人)

① 男女

	男	女	合計
生活介護事業	35	12	47
自立機能訓練事業	12	2	14

② 身体障害者手帳

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	その他	合計
生活介護事業	40	6	1					47
自立機能訓練事業	1	4	1	3	2	2	1	14

③ 主疾患

	脳血管障害	外傷	低酸素	難病	その他	合計
生活介護事業	28	12	3	2	2	47
自立機能訓練事業	9	4			1	14

④ 障害程度区分 (生活介護事業)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
生活介護事業			9	9	8	21	47

(4) 援助内容 (生活介護事業)

利用者本人のニーズや背景を考慮し、複数のプログラムを用意し、利用者が主体的に自己選択・自己決定が行えるように援助した。

① 料理活動

料理を通じ作業動作ならびに日常生活の技術取得への支援を、作業療法士と支援員を中心に実施した。

② 機能保持活動

ア. リハビリテーションプログラム

療法士・看護師・リハビリテーション医など専門スタッフと支援員とがチームを組み合わせながら提供した。

イ. 生活支援

日常生活における様々な問題解決のため適切なアドバイスを行い、関係機関とも連絡調整して、連携をとった。

ウ. 健康管理

食後の口腔ケアや血圧・体重・検尿及び委託による腸内細菌検査の実施。また合併症、後遺症のケアを自己管理できるよう、主治医、看護師、家族と連携をとりながら支援した。

③ 創作活動

手芸・料理・園芸などグループあるいは個別で支援した。

④ 仲間作り

高次脳機能障害の方々を中心に、仲間作りを積極的に支援した。2009年度も前年度に続き3つの自主グループが活発に、当事者が中心となって活動を行った。また、地域、学校、企業からの依頼を受け、利用者自らが講師となり講演する機会を積極的に作った。

⑤ 所外活動

季節感あるリズムある暮らしと社会参加への足がかりとして実施した。

ア. 見学・鑑賞・散策

美術館・文学館・公園などの見学や散策、デパート、専門店、商店街での買い物など利用者自身が選択、決定し実施。また四季折々を体験できるよう、小グループで様々な場所へ外出し、受傷前の生活と同じように工夫次第で可能になることを経験し、またグループで活動することにより精神的な負担を軽減し、アクティビティを高めた。

イ. プール活動

毎週土曜日に区立総合運動場のプールを利用し機能回復と維持、リラクゼーションを図る活動を実施した。

ウ. 催事などへの参加

地域での祭り・バザーなどに、希望者を中心に参加し、地域と交流する機会を協会本部と連携して作った。(雑居まつり、エ・テ・マルシェ、烏山もったいないバザール・おたがいさまフェスタ等)

⑥ 援助プログラムづくり

利用者個々のニーズや障害状況を把握し、最も効果的と思われる支援プログラムを行った。

ア. 利用者が抱える個々の問題について必要に応じて個別相談を実施した。

イ. 利用者への援助に際して、デイサービスにおける長期・短期目標を自己決定できるように支援し、実施に際しては、家族と連携を取りながら行った。また、定期的な見直しを必ず行った。

ウ. 行政、関連機関と緊密な連携をとり、個別支援を厚く行い、効果を見ることができた。現在、生活介護事業を利用しながら、一般就労を開始している利用者2名。

エ. 高次脳機能障害者自主グループへの支援と、高次脳機能障害者関係機関との連携に努力し、社会への啓発活動に協力した。

(5) 自立訓練（機能訓練）

① 利用現況

利用者：14名（1日定員：6名） ※2010年3月現在

	月	火	水	木	金
男	4名	7名	6名	6名	7名
女	2名	1名	1名	1名	1名
計	6名	8名	7名	7名	8名

② 利用者動向

性別	年齢	障害名	支援内容	利用目標	利用 日数	在籍 期間	在籍 月数
男	60代	脳梗塞による言語機能喪失・右上肢機能障害・右下肢機能障害	パソコンのスキルアップ	生活範囲の拡大	2/週	2007年10月～	30
男	60代	脳梗塞による左上肢・左下肢機能障害	生活リズムの確立	生活範囲の拡大	1/週	2008年8月～	20
女	40代	くも膜下出血による左上肢機能障害	復職支援	復職	2/週	2008年11月～	17
男	20代	外傷による言語機能障害	基本的な生活習慣の確立	就労	1/週	2009年2月～	14
男	40代	くも膜下出血	就労支援	就労	5/週	2009年3月～	13
女	50代	脳出血による左上肢機能障害・体幹機能障害	生活リズムの確立	生活範囲の拡大	1/週	2009年5月～	11
男	30代	脳梗塞による右上肢・右下肢機能障害	就労支援	就労	2/週	2009年5月～	11
男	40代	疾患による両下肢機能障害	生活リズムの確立	生活範囲の拡大	2/週	2009年5月～	11
男	60代	くも膜下出血による右上肢・右下肢機能障害	就労支援、体力づくり	就労	5/週	2009年9月～	7
男	50代	外傷による左下肢機能障害・高次脳機能障害	就労支援、体力づくり	就労	3/週	2009年9月～	7
男	40代	頸髄損傷による両上肢・体幹機能障害・パーソナリティ障害	生活リズムの確立	就労	1/週	2009年11月～	5

男	40代	右肩鎖関節脱臼による右肩関節機能障害・高次脳機能障害	基本的な生活習慣の確立	就労	3/週	2010年1月～	3
男	40代	脳出血による左上肢・左下肢機能障害	就労支援	就労	2/週	2010年2月～	2
男	50代	脳出血による左上肢・左下肢機能障害	復職支援、体力づくり	復職	3/週	2010年3月～	1

※ 各人の状況が異なることから利用日数は多様になっている。

③ 退所者動向

性別	年齢	障害名	支援内容	利用目標	利用日数	在籍期間	在籍月数	転帰
女	40代	脳性麻痺による体幹・両上肢機能障害	生活範囲の拡大、身体機能維持	生活範囲の拡大	2/週	2007年4月～2009年9月	30	ボランティア
男	50代	脳出血による左上肢機能障害・左下肢機能障害	身体機能(持久力)向上	就労	2/週	2007年8月～2010年1月	30	介護保険通所介護利用他
男	30代	疾患による両上肢機能障害・両下肢機能障害、器質性人格障害	基本的な生活習慣の獲得	就労	2/週	2008年1月～2009年6月	18	他施設利用検討
男	50代	脳出血による左上肢・左下肢機能障害	生活範囲の拡大	就労	1/週	2008年4月～2009年9月	18	介護保険通所リハ利用
男	60代	脳梗塞による右上肢機能障害・右下肢機能障害	身体機能維持、生活範囲の拡大	生活範囲の拡大	2/週	2008年6月～2009年12月	19	介護保険通所リハ利用
男	40代	脳梗塞による左上肢機能障害	復職支援	復職	5/週	2008年10月～2009年12月	15	復職

④ 主なプログラムと1週間の流れ

	内容	目的	現況	今後の方向
日曜日	毎月最終日曜日に「市場」を開催。ふらっとで3回、多摩川癒しの会拠点(二子玉川)で3回開催した。	地域における役割や場所を主体的に見つけるキッカケを探す。	会場がふらっとの場合には集客が難しく、二子玉川の場合は利用者が参加しにくいとの意見があった。	いずれの場所でも少しずつリピーターが生まれ始めている。利用者の主体的な参加を目指して試行錯誤中。

犬用クッキー販売委託	横浜にある高次脳機能障害者の地域作業所「すてっぷなな」が製造している犬用クッキーを受託販売。	犬用クッキーというツールを通じて、ふらっと以外の場所や人と繋がる機会とする。委託販売に伴う各種作業を訓練として活用する。	クッキーの受け取りに毎月「すてっぷなな」まで出向いている。	単にクッキーを受け取るだけではないつながりを少しずつ作っていききたい。
料理		馴染みがある「食」を利用した各種訓練を行う。日曜市の商品試作・商品作りの場として利用する。	商品試作として毎週、餃子を皮から手作りしたり、商品となるジャムや燻製等を作っている。	日曜市商品開発・作成の場としてさらなる活用を図りたい。
外出		計画作りを含め、主体的に物事を遂行する場、他者との関わりの持ち方についてトレーニングする場、IADL訓練の場とする。	各人の障害状況や年齢等が少人数でありながら多様であるため、話し合いを成立させる難しさがある。 各人の状況（身体面、経済面等）が異なる中でのグループ活動となるため、配慮が必要。	グループ活動だが、各人の目標に基づいたそれぞれのトレーニングの場としても活用したい。
ふらっと内の作業	朝の準備、昼食配膳等	日常生活を利用した各種訓練の場とする。また、自分でできることは自分達で行うことを手始めに、役割を担う場の一つとしても活用する。	利用者によって意識の濃淡はあるが、各人に応じた様々な場面で作業を担うことができるようになってきている。	就労以外の場でも自身が必要とされている場があることに気づく一助となるような場づくりを目指したい。
個別課題		個別に対応が必要なことや、各人が希望するスキルアップについて対応する。	スキルアップしたい内容が自ら明確な利用者が少なく、用意されている作業を行う時間となっている利用者が多い。	スキルアップが必要なことについて、利用者自身が気づけるような場づくりを目指したい。

* 1週間の流れ（例）

	月	火	水	木	金
午前	料理	軽運動（ウォーキング等）	日曜市に向けた活動	予定決め及び外出	スポーツ
午後	個別課題	個別課題	個別課題	個別課題	個別課題

⑤ 関係機関一覧

就労支援機関	東京障害者職業センター
	東京都心身障害者福祉センター

	障害者支援情報センター 三軒茶屋プリズム
	世田谷更生館
	世田谷区障害者就労支援センターしごとねっと
企業等	(株) 凸版グラフィックコミュニケーションズ
	防衛省
医療機関	あしかりクリニック
	自衛隊中央病院
	慈恵医科大学病院
	桜新町リハビリテーションクリニック
	東京医療センター
	横浜南共済病院
介護保険 及び 自立支援法 関連	世田谷区立総合福祉センター
	れいんぼう川崎
	あかね
	ケアプラン田園
	さくら・ぷらんにんぐ
	下馬あんしんすこやかセンター
	玉川居宅介護支援事業所
	ソフィア訪問看護ステーション
	ホスピア三軒茶屋
	ケアステーション連
	ケアセンターwith
	ケア相談センター結

(6) 送迎

車いす利用者が多いこと、区内全域に利用者がいることなどから、送迎はデイサービスの重要な支援となっている。(自立機能訓練事業は基本的に自主通所としている。)

2009年度から、運行委託によるリフト付き中型バス1台のほか、車いすが2台乗るワゴン車が世田谷区より配備され、職員が運転する法人車両3台と併せて、可能な限り、きめ細かな送迎を実施した。2009年度の最長乗車時間(送迎時片道)1時間20分程度と、若干ではあるが2008年度の1時間55分より短くすることができた。

* 法人車両走行距離 <車両3台内訳> (単位: km)

	赤い羽根号	ハイエース	エヴリィ	フリード	計
2009年度	11,260	10,837	廃車	8,315	30,412
2008年度	17,933	14,722	10,644	380	43,679

* 法人車両走行回数 <車両3台内訳>

	赤い羽根号	ハイエース	エヴリィ	フリード	計
2009年度	847	712	廃車	655	2,214
2008年度	1,154	818	816	31	2,819

(7) 高次脳機能障害相談窓口

2009年度から世田谷区高次脳機能障害者支援促進事業を受託し、以下のような内容で実施した。4月から3月末日までの相談件数88件。2009年度は、電話相談での情報提供以外はすべて面接を実施。施設内にとどまらず、入院先の病院、自宅への訪問等を行った。

当相談窓口につながる相談者は、高次脳機能障害が比較的重度であり、単に相談にとどまらず、関係機関との連携や、相談ケースにおける支援体制を整えた。また、高次脳機能障害を中心としてケアプランを作成する必要の多いケースが中心となった。

また、世田谷区内への転入例もあり、区外の機関と連携や情報交換することも必要であった。

① 相談件数

	電話	面接	合計
件数	20件	68件	88件

② 高次脳機能障害について啓発活動（依頼を受けて講演）

- ・ 神奈川県リハビリテーション病院主催高次脳機能障害支援セミナー
- ・ 社会福祉法人友愛十字会更生館 職員研修
- ・ 昭和女子大学人間社会学部
- ・ 神奈川県藤沢市民公開講座

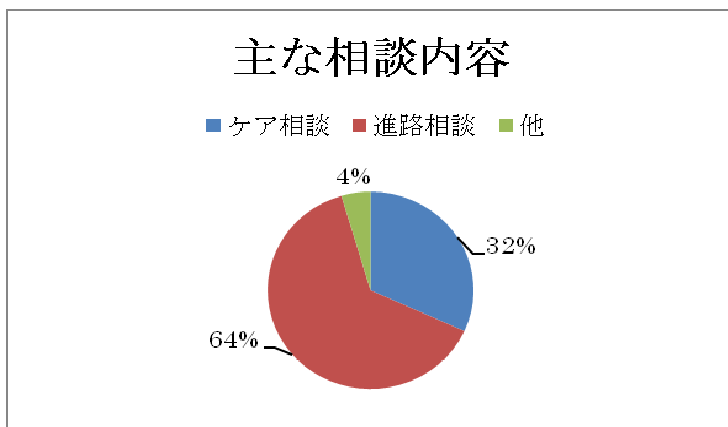
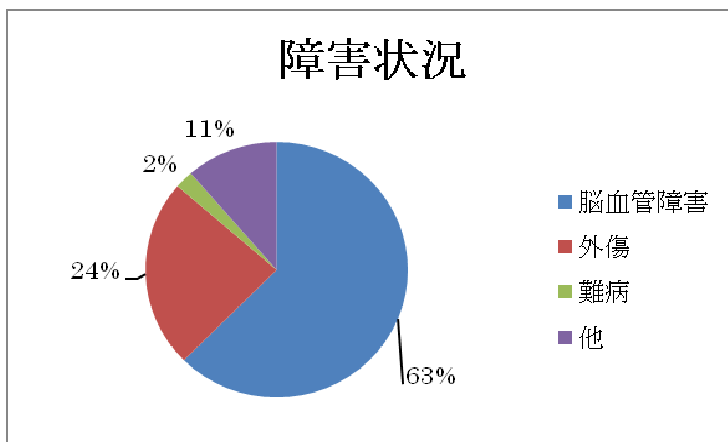
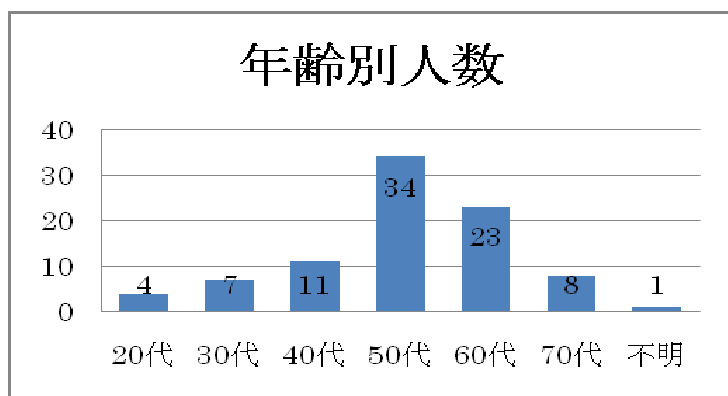
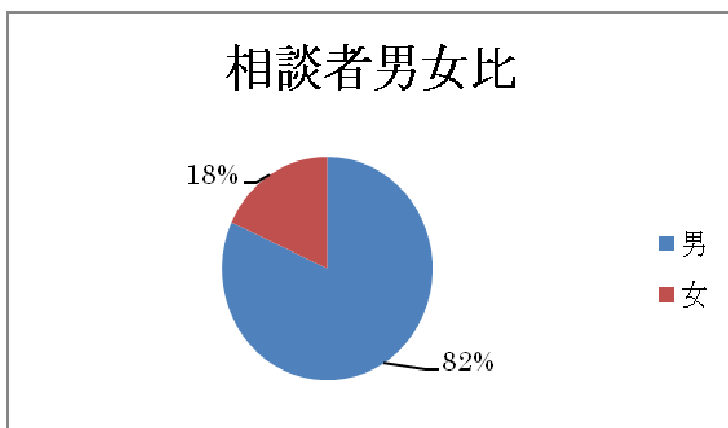
③ 関連機関と合同会議

- ・ 総合福祉センター 高次脳機能障害関係施設連絡会
- ・ 東京都心身障害者福祉センター高次脳機能障害相談員連絡会

④ 連携機関

1	世田谷区各総合支所保健福祉課障害支援担当
2	高次脳機能障害者家族会
3	社会福祉法人武蔵野会
4	品川区荏原保健センター
5	砧あんしんすこやかセンター
6	東京慈恵会病院本院・第三病院
7	初台リハビリテーション病院
8	ありすの杜
9	千葉療護センター
10	いきいき福祉ネットワークセンター
11	河北リハビリテーション病院
12	れいんぼう川崎
13	神奈川リハビリテーション病院
14	しごとねっと
15	東京医療センター

⑤ 相談概要図



(8) 実習・研修・見学受け入れ状況

① 実習

団体名等	人数
帝京平成大学作業療法学生	1 (11日間)
教員免許のための介護等体験実習	14 (5日間)
昭和女子大学学生	2
日本社会事業大学学生	1 (24日間)
北里大学作業療法学生	3 (4日間)
東京医療学院作業療法学生	1 (5日間)
合 計	22人

② 研修

団体名等	人数
西東京ケアマネ研修会	5
三菱東京UFJ銀行研修	4 (2日間)
人事院研修	12 (5日間)
日本エルダリーケアサービス	3
千代田区富士見会館	1
合 計	25人

③ 見学

団体名等	人数
婦人の友社	1
昭和女子大学職員	1
東京医薬専門学校講師	2
東京新聞取材	1
世田谷区民生委員	8
品川区荏原在宅介護支援センター	2
ソフィア訪問看護ステーション	1
日本エルダリーケアサービス	3
品川区荏原保健所	3
昭和女子大学学生	9
早稲田大学大学院生	1
中央大学学生	4
静岡県西部保健センター	3
自動車事故対策機構 千葉療護センター	3
NHK取材	7
浩仁堂	1
堺市社会福祉事業団	2

クラブツーリズム	2
初台リハビリテーション病院職員	5
昭和女子大学教授	1
飛鳥山晴山苑職員	1
NPO法人笑い太鼓	3
日本経済新聞	1
首都大学健康福祉学部教授	1
品川区	1
島根県立心と体の相談センター	1
武蔵野会	1
合 計	69人

(9) 職員研修

研修名	参加人数	備考
高次脳機能障害移動支援ヘルパー	1	世田谷区主催
自立支援協議会世田谷エリア部会	7	世田谷区主催
高次脳機能障害者相談支援研修会	1	東京都心身障害者福祉センター
高次脳機能障害者支援事業関係研修会	1	同上
日本障害者協議会臓器移植法に関する学習会	1	日本障害者協議会
世田谷区障害者ケアマネジメント研修	2	世田谷区
脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会研究部会	17	同学会
保健医療と人権	1	シェア＝国際保健協力市民の会
福祉事業における権利擁護・苦情対応研修	1	東京都社会福祉協議会
高齢者における地域の医療連携について	1	東京都医療保険福祉学会
トータルケアマネジメント	1	NPO法人やわらぎ
せたがや区民福祉学会	1	世田谷区社会福祉事業団
遷延性意識障害者の可能性を引き出す看護	1	家族会わかば
画像カンファレンス	8	ケアセンターふらっと
生活適応援助者研究養成研修	1	名古屋リハビリテーションセンター
高次脳機能障害者のためのボランティア養成講座	1	東京高次脳機能障害協議会

(10) 運営委員会

ケアセンターふらっとが実施している様々な事業運営に関し、その充実と課題の解決について、以下の運営委員の協力を受け、2009年度は3回開催した。

委員名	
芦刈伊世子	あしかりクリニック院長
小佐野彰	自立の家をつくる会代表
金澤弘道	世田谷区保健福祉部障害者地域生活課長
興栢寛	ボランティア協会理事長

小深田玲子	国分寺ライフネット管理者
橋本圭司	国立成育医療研究センター病院医師
蓮見宣幸	世田谷区玉川保健福祉課障害者支援係長
長谷川幹	桜新町リハビリテーションクリニック院長
野田博二	ボランティア協会事務局長
和田敏子	ケアセンターふらっと施設長

(11) ボランティア受け入れ

ボランティア数	225名	延べ655名
---------	------	--------

(12) 職員体制

職種	常勤	非常勤
施設長	1名	
サービス管理責任者（作業療法士1名）	2名	
支援員	4名	
作業療法士（サービス管理責任者と兼務1名）	2名	
看護師	1名	
事務	1名	
理学療法士		1名
言語聴覚士		2名
リハビリテーション医（嘱託）		1名
臨時職員 うち1名清掃で障害者雇用		8名

2. ケアセンターwith（介護保険 通所介護）

「ケアセンターwith」は、2005年にボランティア協会がまとめた在宅サービス事業検討委員会報告書「高次脳機能センター with」構想に基づき、2007年3月にオープンした。高次脳機能障害者へのモデル的な事業として、全国からも注目される場所である。本事業は、預かるという視点のデイサービスの運営にとどまらず、「回復」を合言葉に、家族を含め、地域密着型のユニークな取り組みを行っている。

(1) 運営方針

- ① 介護保険制度の適用を受ける被保険者で、高次脳機能障害をもつ方に、積極的に地域で充実した時と場を提供する。
- ② 高次脳機能障害について当事者、家族、スタッフ、ボランティアが互いに学びあいながら、機能回復をめざし、楽しく豊かな生活を共につくる場として運営する。
- ③ 利用者の自己選択、自己決定を基本に事業を進める。

(2) 利用定員等

- ① **利用定員**=1日利用定員10名の範囲で、その日に空きがある場合は、希望される方を受け入れている。
- ② **利用日** =年未年始、日祝日を除き、月曜日から土曜日まで開所日とした。なお、夏季に事務整理等に当てるために休業日を設けた。
- ③ **利用時間**=基本は9時45分から16時だが、利用者の様々なニーズに合わせ、8時から20時までケア及び送迎に対応している。

④ 2009年度利用状況

	利用日	登録人数	予定人数	利用人数	出席率
2009年度	289日	27名	2517名	2158名	86%
2008年度	289日	26名	2406名	2123名	88%
2007年度	288日	21名	1831名	1651名	90%
2006年度	23日	9名	81名	77名	95%

(3) 利用者状況 (2010年3月31日現在、単位：人)

① 男女

男	女	合計
23	4	27

② 身体障害者手帳

1級	2級	3級	4級	6級	精神	なし	合計
13	5	2	2	1	2	2	27

③ 高次脳機能障害状況 (複数該当あり)

記憶障害	失語症	注意力障害	前頭葉症状	認知症状	高次全般	難病	合計
11	9	6	2	1	1	2	32

④ 要介護度

要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
3	8	8	4	4	27

(4) 援助内容

① 基本サービス

基本サービスの内容は、利用者とともに話し合っで決めることを基本とし、「ふらっと」の12年間で築き上げてきた手法を基に、以下の4本の柱を中心に置き活動を行った。

ア. 昼食の提供

昼食のメニューを朝のミーティングの時みんなで考え、決めた。必要な食材を買いに商店街に行く。いろいろな工夫を一緒に考え料理活動を行った。またプログラムに応じ、弁当発注（知的障害者の作業所「目黒フードコミュニティ」への発注など）も行った。

イ. 外出活動を中心とした活動の充実

四季折々の景色を見に行ったり、ウィンドウショッピングに出かけたり、時には昔なじみの喫茶店でお茶をしたり、絵画や伝統工芸などの文化教養に触れたり、楽しい「とき」と「空間」をみんなで共有した。季節を感じながら食事をみんなで楽しむことを目的に外出に出かけることもあった。主な外出先は、新国立博物館、国立東京博物館、東京都美術館、ららぽーと横浜、山種美術館、ラゾーナ川崎、横浜山下公園など。室内では、パソコン活動を中心として利用者からの希望を実施できるように環境を整えた。

ウ. 機能保持活動

医師や療法士と連携を取りながら、癒された時と穏やかな生活の工夫を、利用者とその家族と一緒に考え、看護師、作業療法士、嘱託医と共に保健相談を実施した。また月2回、言語療法士によるセッションを行った。

エ. 社会関係づくり

高次脳機能障害の理解を広げ、豊かな生活を送るために、ケアセンターwithを拠点にして、様々な人と交わっていき試みを行った。利用者と様々な形でかかわるボランティアは、スペースに限りがあるため、少しずつ受け入れた。また利用者自らがボランティアをキーワードに、主役となって社会参加することを徐々に展開した。

- * 毎月一度土曜日に「サタディ with café」を開催。当事者、その家族、ボランティア、スタッフで様々な企画を立案し、積極的に当事者が主体となって地域に発信する事業プログラムを実施した。内容：小泉清人ギターライブ、哀愁ぼらいずライブ、利用者家族の交流会など
- * 玉川福祉フェスティバルに模擬店で参加した。
- * 商店街に加盟し、交流が深まってきた。

② 個別的サービス

ア. 介護保険制度の枠にとどまらず、個人の生活を可能な限り援助する視点から、個別ニーズにも応じる。利用者の目的に沿った時間延長、個別相談、機能訓練など、高次脳機能障害の特性を考慮に入れたサービス提供を行った。

イ. 連絡帳をつくり、その日の活動風景をデジカメで写して貼り、記憶の想起手段、失語症の表現の補助道具として活用した。

ウ. リハビリを目的とした入浴の希望がある場合、可能な限りシャワー浴で対応した。

(5) 送迎

日産セレナ（2008年6月に全額自費購入）と日産キャラバン（2009年3月に日本財団より助成を受け購入）を運行し、送迎体制・所外活動を充実させた。運転業務はスタッフが行っている。

(単位：km)

	タウンエース	キャラバン	セレナ (新)	キャラバン (新)	計
2009年度	廃車	廃車	15,668	18,260	33,928
2008年度	2,025	15,852	14,623	67	32,567
2007年度	17,270	13,303			30,573
2006年度	1,450				1,450

(6) 実習・研修・見学受け入れ状況

① 実習

団体名等	人数
世田谷福祉専門学校	3
サービスラーニング学	3
世田谷区社会福祉事業団	3
合 計	9人

② 研修

団体名等	人数
医療法人財団厚生協会	3
三菱東京UFJ銀行	3
日本エルダリーケアサービス	3
合 計	9人

③ 見学

団体名等	人数
V i V i	1
さくらケアサポート	2
シーエルポート世田谷	1
世田谷区役所	3
友愛十字会	1
九品仏地区民生委員	1
九品仏地区社会福祉協議会	2
ライムプラザ ケアマネ	1
産能大学教授・学生	4

臨床美術士	1
朝日新聞社東京支局	1
合 計	18人

(7) 職員研修

- ① **外部研修会・勉強会**：高次脳機能障害支援相談研修、認知症フォーラム（NHK 厚生文化事業団主催）、区西南部地域リハビリテーション支援センター講演会（転倒・骨折防止）
- ② **内部研修**：画像コンサルテーション研修

(8) ボランティア受け入れ

ボランティア数	73名	男性	18名	／	女性	55名
---------	-----	----	-----	---	----	-----

(9) 職員体制

職種	常勤	非常勤
施設長	1名	
介護職員	1名	
相談員（兼務）	2名	
作業療法士（兼務）	1名	
看護師		1名
言語聴覚士		1名
リハビリテーション医		1名
臨時職員（介護職員）		5名

3. ケアステーション連（①介護保険 訪問介護事業、②障害者自立支援法 居宅介護事業・ 重度訪問介護事業、③移動支援事業、④自由契約による事業）

第1号被保険者や高次脳機能障害などの第2号被保険者に対する介護保険事業、障害者(児)に対する自立支援法事業、自由契約利用者などに対するサービスなどを引き続いて実施した。

2008年度から始まった自立支援法の中の地域支援事業である世田谷区独自の「高次脳機能障害者移動支援」においては、2009年度もヘルパーたちがその資格を取得し（計23名）、ガイドヘルパーとしてその役目を担うことができた。関係機関と連携した高次脳機能障害者の自立に向けての回復プログラムの中でも成果がみられ、利用者も増えている。又、フォローアップ研修でもその成果を報告し制度上の課題等も提言した。

(1) 運営方針

その心身の状況、置かれている環境等に応じ、住みなれた地域で、その方らしい自立した日常生活を営むことができるように支援した。多岐にわたる身体や障害状況に応じた支援と、利用者のみならず家族への支援を積極的に行った。

また、ヘルパーミーティングを定期的で開催し、支援への理解を深め、問題の解決、スキルアップ、ヘルパー同士の交流に心がけた。

(2) 2009年度利用状況

	利用者数 (単位：人)					訪問介護提供時間数 (単位：時間)				
	介護 保険	自立 支援法	移動 支援	自由 契約	月合計	介護 保険	自立 支援法	移動 支援	自由 契約	月合計
4月	22	40	7	9	78	331	776	94.5	75.5	1277
5月	22	42	9	8	81	321.5	685	101.5	104	1212
6月	20	42	11	6	79	336	728.5	83	123.5	1271
7月	22	39	8	8	77	350.5	660	90.5	106	1207
8月	22	36	8	8	74	277.5	594.5	71.5	81.5	1025
9月	22	37	9	8	76	277.5	686.5	97.5	114.5	1176
10月	21	39	9	8	77	337	849	123.5	104.5	1414
11月	21	35	7	8	71	325	720	117.5	119	1281.5
12月	21	37	8	10	76	333.5	747.5	120	111	1312
1月	21	39	8	8	76	298	708.5	120	122	1248.5
2月	21	39	8	8	76	307	628	134	126	1195
3月	22	44	11	8	85	330	756	181.5	129.5	1397
合計	257	469	103	97	926	3824.5	8539.5	1335	1317	15016

(3) 利用者状況 (2010年3月末、単位：人)

① 介護保険 24名

ア. 年齢・男女

	40歳 ～	45歳 ～	50歳 ～	55歳 ～	60歳 ～	65歳 ～	70歳 ～	75歳 ～	80歳 ～	85歳 ～	90歳 ～	合計
男性	0	0	3	2	0	9	1	1	0	0	1	17
女性	0	0	0	1	0	1	1	2	1	0	1	7
合計	0	0	3	3	0	10	2	3	1	0	2	24

イ. 要介護度

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援	合計
3	0	4	5	12	0	24

ウ. 被保険者区分

第1号	第2号	合計
18	6	24

エ. 地域

地域	世田谷	玉川	砧	北沢	烏山	渋谷区	合計
人数	6	10	1	2	3	2	24

② 自立支援法 47名 (内3名は複数のサービスを併用)

ア. 利用サービス

居宅介護	重度訪問介護	移動支援	合計
27	4	16	47

イ. 年齢・男女

	0歳 ～	10歳 ～	20歳 ～	30歳 ～	40歳 ～	50歳 ～	60歳 ～65歳	合計
男性	0	4	5	4	7	7	2	29
女性	0	3	4	3	3	2	0	15
合計	0	7	9	7	10	9	2	44

ウ. 地域

地域	世田谷	玉川	砧	北沢	烏山	渋谷区	品川区	目黒区	合計
人数	18	11	4	8	0	2	1	0	44

③ 自由契約 9名

ア. 年齢・男女

	20歳 ～	30歳 ～	40歳 ～	50歳 ～	60歳 ～	70歳 ～	合計
男性	0	1	2	1	1	0	5
女性	0	2	1	0	0	1	4
合計	0	3	3	1	1	1	9

(4) 業務内容

- ① 訪問介護サービス(介護保険)
- ② 居宅介護サービス(自立支援法)
- ③ 重度訪問介護事業(自立支援法)

- ④ 移動支援事業
- ⑤ 自由契約による在宅介護サービス
- ⑥ 請求に関すること（介護報酬・自立支援法報酬・自由契約）
- ⑦ 相談・苦情処理業務
- ⑧ サービスラーニング学の講師
- ⑨ 専門学校生(世田谷福祉専門学校)やサービスラーニング学受講生の実習受け入れ

(5) 職員研修

- ① **外部研修会・勉強会**：サービス提供責任者現任研修、障害者ケアマネジメント研修、同フォローアップ研修、高次脳機能障害相談支援研修会、利用者の視点に立った福祉サービス提供に向けて、相談援助技術研修「コミュニケーションの基本とニーズの把握」、世田谷区高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座の受講（3名資格取得）、世田谷区高次脳機能障害者ガイドヘルパー（フォローアップ研修）、「知的障害者の理解とケア」、他多数の研修に参加。
- ② **内部研修**：ポイント研修（新型インフルエンザ等感染症、トランス、腰痛予防など）・画像コンサルテーション・介護技術研修・新人職員研修・公開研修

(6) 職員体制

職種	常勤	非常勤
管理者（サービス提供責任者）	1	
サービス提供責任者	2	
ケアスタッフ		30
（内訳）介護福祉士		1
ヘルパー1級（看護師）		1
ヘルパー2級		28

4. ケア相談センター結（介護保険 居宅介護支援事業）

2009年度も各福祉事業と連携を取りながら、地域における個々のニーズに可能な限り応じ、暮らしを支援した。

(1) 運営方針

介護保険法に基づく、要介護認定を受けた利用者に対して、個々の解決すべき課題や心身の状況やおかれている環境等に応じた「利用者によるサービスの選択」と「保健・医療・福祉サービスの総合的・効果的な提供」を行うため、適正な居宅サービス計画及びマネージメントを展開する。

(2) 2009年度利用状況

① 居宅サービス提供者状況（年間）

計画対象者数

	男	女	計
要介護1	25	14	39
要介護2	99	42	141
要介護3	145	47	192
要介護4	60	77	137
要介護5	134	54	188
合計	463	234	697

実績対象者数

	男	女	計
要介護1	21	14	35
要介護2	77	26	103
要介護3	118	28	146
要介護4	56	49	105
要介護5	119	36	155
合計	391	153	544

② 認定調査実績状況

月数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
世田谷	3	1	3	1	3	4	2	1	1	8	6	5	38
他区	0	0	3	1	1	1	1	0	0	4	1	1	13
計	3	1	6	2	4	5	3	1	1	12	7	6	51

(3) 利用者状況（2010年3月末、単位：人）

① 年齢・男女

	～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	合計
男	8	6	11	6	3	1	0	3	38
女	1	2	3	1	1	2	2	6	18
合計	9	8	14	7	4	3	4	9	56

② 被保険者区分・男女

	男	女	計
第1号被保険者	24	15	39
第2号被保険者	14	3	17
合計	38	18	56

③ 地域・男女

	男	女	計
世田谷区	36	17	53
渋谷区	2	0	2
目黒区	0	1	1

杉並区	0	0	0
合 計	38	18	56

(4) 業務内容

- ① 要介護状態にあり、ケアが難しい高齢者及び第2号被保険者に対し、適正な介護計画及びマネジメントを提供した。
- ② 居宅サービス計画の作成を行った。
- ③ 介護保険に関する利用申請の代行を行った。
- ④ ケアに関するあらゆる相談、関係機関とのコーディネーションを行った。
- ⑤ 介護保険の認定調査を行った。
- ⑥ 高次脳機能障害をもつ当事者及び家族の相談窓口として、介護保険等制度に関する情報提供を積極的に行った。
- ⑦ 相談業務に関しては、ケアセンターふらっとと連携して行った。実績は、ケアセンターふらっとの相談業務に含まれている。

(5) 職員研修

- ① **外部研修会・勉強会**：区内関連機関との勉強会・介護支援専門員研修会・認定調査研修会
- ② **内部研修**：採用時研修、カンファレンスの開催等

(6) 職員体制

職種	常勤	非常勤
管理者（介護支援専門員）	1	
介護支援専門員（常勤2名は兼務）	2	1

5. サービスラーニング学

福祉事業部が広く地域支援活動から得た人材と、これまでに培った技術を、多くの人たちとわかちあい、学びあう研修事業を実施した。参加者は2008年度より多く充実した事業が展開できた。障害当事者4名が講師となり、当事者の視点でケアを語っていただくなど、他ではない研修を実施することができた。またケアステーション連へ登録をされる修了生もあった。

(1) 東京都訪問介護員養成研修事業

- ① **実施時期**：2009年10月26日～2010年2月28日
- ② **講座参加人員**：11名（男3名・女8名）

③ 研修日程

研修日時		科目	講師名
10月26日	19:00～22:00	福祉理念とケアサービスの意義	藤井 か代子
10月28日	19:00～22:00	ホームヘルプサービス概論	今井 雅子
10月30日	18:30～21:30	障害者(児)福祉の制度とサービス	蓮見 宣幸
10月31日	13:00～16:00	高齢者・障害者(児)の心理	野々垣 睦美
11月2日	18:30～21:30	サービス提供の基本視点	和田 敏子
11月4日	18:30～21:30	高齢者保健福祉の制度とサービス	瓜生 律子
11月6日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅰ	橋 右介
11月7日	13:00～16:00	障害・疾病の理解(生活者支援)	川辺 循
11月9日	18:30～21:30	ヘルパーの職業倫理	今井 雅子
11月11日	18:30～21:30	障害・疾病の理解(心理学的理解)	和田 敏子
11月13日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅱ	橋 右介
11月14日	9:00～13:00	家事援助の方法	大城 英代
11月14日	13:45～16:45	レクリエーション体験学習	大城 英代
11月16日	18:30～21:30	高齢者・障害者(児)の理解	高波 朋子
11月18日	18:00～22:00	介護事例検討	村田 次則
11月20日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅲ	橋 右介
11月21日	13:00～17:00	住宅・福祉用具に関する知識	青木 量二
11月25日	18:30～21:30	医学の基礎知識	大原 昭江
11月27日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅳ	橋 右介
11月28日	9:00～13:00	共感的理解と基本的態度の形成	石川 治江
11月30日	18:30～21:30	在宅看護の基礎知識Ⅰ	片岸 美佳
12月2日	18:30～21:30	介護概論	今井 雅子
12月4日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅴ	橋 右介
12月5日	13:00～15:00	リハビリテーション医療の基礎知識	梶間 剛
12月5日	15:00～17:00	障害・疾病の理解(医学的理解)	梶間 剛
12月7日	18:30～21:30	訪問介護計画の作成と記録、報告の技術Ⅰ	城田 直己
12月9日	18:30～20:30	訪問介護計画の作成と記録、報告の技術Ⅱ	城田 直己
12月9日	20:30～21:30	実習オリエンテーション	
12月11日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅵ	橋 右介
12月12日	13:00～16:00	基本介護技術Ⅶ	芦刈 伊世子
12月14日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅷ	橋 右介
12月16日	18:00～22:00	相談援助とケア計画の方法	辻川 彰
12月18日	18:30～21:30	基本介護技術Ⅸ	橋 右介

12月19日	13:00~16:00	基本介護技術X	中島 明子
--------	-------------	---------	-------

* **実習先**：特別養護老人ホーム 博水の郷・ケアステーション連・ケアセンターふらっと
ケアステーション with

(2) 東京都障害者（児）居宅介護従業者養成研修等事業

① **実施時期**：2009年10月26日～2010年2月28日

② **講座参加人員**：11名（男3名・女8名）

③ **研修日程**：（1）と同じ

(3) 公開講座（上記講座の一部） 参加人員：22名

(4) 養成研修修了後の受講生の動向 ケアステーション連にて2名がヘルパー登録

IV. 組織推進

2009年度から職員体制が変わり、経理業務が軌道に乗ったため、重点目標を始めとして事務局運営における様々な重要課題に取り組むことができた。ただし、2009年度の重点目標の中で、職員研修の長期計画の策定に着手することができなかつたため、2010年度も引き続き重点目標として取り組む。

1. 組織運営

理事会、評議員会、常任理事会等を開催し、円滑な法人運営に努めた。また、2009年度は新型インフルエンザ対策連絡会議を新たに設置し、衛生委員会と連携して、新型インフルエンザの流行への対応に努めた。

(1) 理事会

回数	開催日	審議事項
第1回	5月22日	① 2008年度事業報告・決算について ② 登録ホームヘルパー就業規則の変更について ③ 登録ホームヘルパー賃金規程の変更について
第2回	10月7日	① 職員就業規則の変更について ② 再雇用職員就業規程の制定について
第3回	12月21日	① 第1次補正予算について ② 職員給与規程細目の変更について ③ 介護休業、介護のための深夜業の制限および介護短時間勤務に関する規則の変更について
第4回	3月30日	① 経理規程の変更について ② 第2次補正予算について ③ 2010年度事業計画・予算について ④ 個人情報保護規程の変更について ⑤ ケアセンターふらっと運営規程の変更について ⑥ 訪問介護事業所ケアステーション連運営規程（介護保険）の変更について ⑦ ケアステーション連運営規程（障害者自立支援）の変更について ⑧ ケアセンターwith運営規程の変更について ⑨ ケア相談センター結運営規程の変更について ⑩ 職員就業規則の変更について ⑪ 育児休業等に関する規則の制定について ⑫ 臨時職員就業規則の変更について ⑬ 登録ホームヘルパー就業規則の変更について ⑭ 登録ホームヘルパー賃金規程の変更について ⑮ 職員給与規程の変更について ⑯ 職員給与規程細目の変更について ⑰ 常務理事の選任について

(2) 評議員会

回数	開催日	審議事項
第1回	5月22日	① 2008年度事業報告・決算について ② 登録ホームヘルパー就業規則の変更について ③ 登録ホームヘルパー賃金規程の変更について
第2回	10月7日	① 職員就業規則の変更について ② 再雇用職員就業規程の制定について
第3回	12月21日	① 第1次補正予算について ② 職員給与規程細目の変更について ③ 介護休業、介護のための深夜業の制限および介護短時間勤務に関する規則の変更について
第4回	3月26日	① 経理規程の変更について ② 第2次補正予算について ③ 2010年度事業計画・予算について ④ 個人情報保護規程の変更について ⑤ ケアセンターふらっと運営規程の変更について ⑥ 訪問介護事業所ケアステーション連運営規程（介護保険）の変更について ⑦ ケアステーション連運営規程（障害者自立支援）の変更について ⑧ ケアセンターwith運営規程の変更について ⑨ ケア相談センター結運営規程の変更について ⑩ 職員就業規則の変更について ⑪ 育児休業等に関する規則の制定について ⑫ 臨時職員就業規則の変更について ⑬ 登録ホームヘルパー就業規則の変更について ⑭ 登録ホームヘルパー賃金規程の変更について ⑮ 職員給与規程の変更について ⑯ 職員給与規程細目の変更について ⑰ 理事の選任について

(3) 常任理事会

法人の日常的な事業運営について審議するため、理事長、副理事長、常務理事で構成し、事務局からは事務局長、各部長等が出席して、月に1回定期的に開催した。

(4) 法人連絡会

各事業間の情報共有と事業執行上の課題を協議するため、理事長、事務局長、各部長で構成し、月に1回定期的に開催した。

(5) 衛生委員会

産業医の指導のもと、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保するため、定期的に委員会を開催した。また、2009年度は新型インフルエンザ対策会議と連携し、新型インフルエンザへの対応についても取り組んだ。

区 分	選任区分	氏 名	所 属
委員長	統括管理補助者	野田 博二	事務局長
委 員	産業医	藤田 和丸	藤田医院院長
〃	衛生管理者	和田 敏子	福祉事業部長
〃	衛生管理者	赤井 充也	組織推進部長
〃	衛生経験	今井 雅子	福祉事業部・ケアステーション連 管理者
〃	〃	阿部 紀夫	ボランティア・市民活動推進部職員

(6) 新型インフルエンザ対策連絡会議

新型インフルエンザの流行に適切に対応するため、事務局長、各部長、各施設長、各管理者を委員として、5月19日に新型インフルエンザ対策連絡会議を設置した。そして、衛生委員会とも連携して、発生状況の変化等に応じて適宜、協会の対応策を検討し、職員・利用者へ周知するとともに、関係者の罹患情報の把握に努めた。

2. 事務局運営

(1) 業務の効率化と適切な組織管理（重点目標）

① 管理職と有資格者を採用する際の給与水準の見直し

ケアセンターふらっとにおいて、看護師と理学療法士の募集をしても応募が無く、欠員の状態が続いた。応募が無い主な原因は給与水準にあると考えられたため、管理職および施設の運営規程上で配置が必要な資格職で、十分な経験を有する人を採用する場合の給与水準の見直しを検討した。そして、給与額等を定めている職員給与規程細目の変更について、第3回評議員会と第3回理事会で、承認を受けた。この結果、看護師と理学療法士ともに応募があり、2010年度当初に欠員が埋まる見通しとなった。

② 人事考課制度の実施

2007年度から試行実施してきた人事考課制度に関する実施要綱を制定して、2009年度から正式に実施し、その結果に基づき、2010年度の職員給与額を決定した。

③ 福祉・介護職員処遇改善交付金の申請

福祉・介護職員処遇改善交付金は、厚生労働省が所管し東京都が事業主体となって、福祉・介護職員の処遇改善に取り組む事業者へ資金を交付する事業であり、2011年度まで実施される。当協会でも、介護の現場で働く職員に処遇改善手当を支給するため、第4回評議員会と第4回理事会で給与規程等の変更の承認を受け、交付金を申請し、2010年度からの交付が決定した。

(2) 活動拠点の防火・防災対策の強化（重点目標）

① 防災設備の改善

ア. これまで避難設備が無かった代田ビューロー2階に、避難用はしごを設置した。

イ. 地震に備えた転倒防止対策を施すため、ボランティアセンター、各ビューローの器具・什器の設置状況を調査した。それぞれの器具・什器に応じた転倒防止策を考え、優先度に基づき、ボランティアセンターの通路に設置しているロッカーに施工した。2010年度も引き続き、他の対象箇所の施工を行う。

② 防災・防火訓練の強化

地震・火災等の災害に備えて、各活動拠点における防災・防火訓練の内容の向上を図った。

実施日	訓練項目	実施場所	参加施設	参加人数
7月24日	避難訓練	パーム下馬	ボランティアセンター、ケアセンターふらっと、プレーパークせたがや	24名
9月15日	消火訓練（世田谷消防署に水消火器を用いた消火訓練の出張指導を依頼）	パーム下馬	ボランティアセンター、梅丘・代田・玉川各ビューロー、ケアセンターふらっと、下馬福祉工房	21名
1月19日	避難訓練	梅丘ビューロー	梅丘ビューロー	14名
3月12日	総合訓練（避難訓練と消火訓練）	パーム下馬	ボランティアセンター、梅丘ビューロー、ケアセンターふらっと、下馬福祉工房、プレーパークせたがや	50名

(3) 職員研修の長期計画の策定（重点目標）

2009年度中に研修計画の策定に着手できなかったが、介護職員処遇改善交付金においてもキャリアパス要件を満たす研修計画の策定が求められているため、2010年度に引き続き重点目標に掲げて取り組む。

(4) ケアセンターふらっととケアステーション連の経理区分の変更

東京都福祉保健局によるケアセンターふらっととケアステーション連への実地検査の際に、当協会の経理区分への改善指導があり、事業所ごとの区分だけではなく、認可を受けている事業毎に区分するように指導をうけた。この指導により、新たな経理区分ごとの補正予算や按分基準の作成を行い、第4回評議員会と第4回理事会で経理規程の変更と補正予算の承認を受けた。

(5) 施設改修に伴う玉川ビューローの一時移転

玉川ビューローが入っている世田谷区教育委員会教育相談室玉川分室の建物が2009年6月から10月にかけて設備の改修を行うため、玉川ビューローを(社)シルバー人材センター用賀作業所内に一時移転することとなった。そのため、2008年度からボランティア・市民活動推進部と協力して移転の準備作業を始め、2009年度も引き続き、利用者説明会や引越業者との打合せ、各種届出等を行い、6月15日に移転した。また、改修後に、元の施設に再移転する際も、各種届出、必要物品の調達および設置、不用品の処分等の作業を行った。

5月29日 玉川ビューロー利用者への最終説明会を開催

6月15日 (社)シルバー人材センター用賀作業所内に移転

10月30日 元の教育相談室玉川分室へ再移転

(6) 臨時職員等更新手続要綱の制定

臨時職員および登録ホームヘルパーの雇用契約の更新に関する手続きを円滑に実施するため、臨時職員等更新手続要綱を制定した。

(7) 規程類の整備

現行法令に則って、再雇用職員就業規程、個人情報保護規程、各運営規程、各就業規則、育児休業・介護休業等に関する規程類等を変更もしくは新たに制定し、各評議員会および理事会で承認を受けた。

(8) 年次報告書の作成

- ① 2008年度年次報告書を400部発行
- ② 2008年度年次報告書の抜粋を協会のホームページに掲載
- ③ 2008年度事業報告と決算報告の抜粋を「セボネ」9月号に掲載

(9) 研修への参加

- ① 東京都社会福祉協議会主催「社会福祉法人監事研修」8月24日：監事1名参加

(10) 職員定期健康診断の実施

安全衛生管理規程に基づき、職員定期健康診断を実施した。

実施時期	実施機関	受診人数
7月～2月	社会保険新宿健診センターもしくは世田谷区保健センター	34名

(11) 職員体制

常 勤 : 組織推進部長 1名、給与・庶務担当 1名
臨時職員 : 会計担当 1名 (週5日)

3. 財政運営

(1) 財務検討準備会 (重点目標)

協会の財務運営の新たな指針を検討する財務検討委員会の設置に向けて、2月16日に理事長、副理事長1名、監事1名、事務局長、各部長の参加で財務検討準備会を開催し、協会の収支状況の分析と財務検討委員会の課題整理等を行い、2010年度の初めから、財務検討委員会を発足させることとした。